



# 年次報告書 2024-25 年度

※本資料は機械翻訳サービスによって翻訳され、それを見直ししております。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。

# 目次

- 3 > 会長挨拶
- 4 > 事務総長からのメッセージ
- 5 > 科学・計画調整委員会委員長からのメッセージ
- 7 > 会員
- 8 > 2024年ハイライト：持続可能性に関するデーリー・パリ宣言
- 10 > 概要
- 16 > 国際酪農連盟（IDF）について
- 17 > 作業計画
- 32 > 会員と主な動向
- 36 > 出版物
- 38 > 受賞および表彰
- 41 > 今後のイベント
- 42 > 技術ウェビナーシリーズ
- 44 > IDF理事会
- 46 > IDF 科学・計画調整委員会 (SPCC)
- 47 > IDF 本部
- 48 > 財務諸表

国際酪農連盟（IDF）  
AISBL発行

Silver Building  
Boulevard Auguste Reyers 70/B  
B-1030 Brussels, Belgium  
RPM Brussels

> [www.fil-idf.org](http://www.fil-idf.org)

## 2025年10月発行版

本出版物に含まれる内容に基づいて行動または行動を控えた結果、いかなる人物に生じた損失または損害についても、出版社は一切の責任を負いかねます。

© 国際酪農連盟 AISBL 2025年10月。本出版物の全部または一部に関する著作権はIDFに帰属します。本文書内で明示的に許可されている場合を除き、IDFの書面による許可を得ることなく、または既存のライセンスの規定に従わない限り、本著作物のいかなる部分も、複製、使用、またはグラフィック、電子的、機械的手段（複写、録音、録画、ウェブ配信を含む）によるいかなる形式での利用も禁止されています。



# 会長 ご挨拶

国際酪農連盟 (IDF) 会長としての初年度を振り返り、大きな誇りと深い責任感を抱いております。2024年10月に会長に就いて以来、科学、協力、持続可能性を通じて酪農分野の発展に尽力する活気あるグローバルコミュニティと関わる権利に恵まれました。今後4年間にわたり組織を率いるという重責をIDFコミュニティから託されたことに、深く感謝しております。

この一年は活発な対話と新たな活力が特徴でした。ワシントンD.C.で初めて主催した「持続可能な酪農乳業枠組み諮問委員会」から、キガリで開催された初のアフリカ地域酪農会議におけるIDF代表としての活動まで、包括的で多様なステークホルダーが参加する取り組みの力を直接目の当たりにしました。こうした交流を通じて、酪農の未来は「耳を傾け、適応し、目的を持って主導する」私たちの能力にかかっているという確信がさらに強まりました。

持続可能性に関するデーリー・パリ宣言に続く我々の取り組みは、有意義な進展のための強固な基盤を築きました。特に感銘を受けたのは、我々の前提に疑問を投げかけ、戦略を豊かにする多様な視点の共有です。これらの貢献は、DSFとIDF双方にとって、より強靱で先見性のある持続可能性の枠組みを構築する上で極めて重要です。

キガリ会議において、私はIDFの永続的な使命を強調しました。それは、安全かつ持続可能な方法で生産された乳製品で世界の人々を養うことです。60億人以上の消費者と10億人の生計が当業界と結びついていることから、私たちの影響力は計り知れません。私たちは科学に基づく栄養学、厳格な安全基準、そして公正で持続可能な酪農乳業システムを促進する世界的に調和した規制への取り組みを継続します。

今後の展望として、特にチリで開催予定のIDFワールドデーリーサミットの準備を進める中で、今後数年にわたる新たなIDF戦略計画の実施により、我々の前に広がる機会に大きな活力を感じています。この画期的なイベントは、ラテンアメリカが世界の酪農産業において果たす役割の拡大を浮き彫りにするだけでなく、イノベーション、公平性、環境管理への我々の取り組みを改めて確認する場となるでしょう。

会員の皆様、各国内委員会、パートナーの皆様の絶え間ないご支援に心より感謝申し上げます。事務局長ならびにIDFチームの皆様のご支援と揺るぎない貢献に感謝いたします。また、IDF理事会、SPCC、常設委員会のメンバー、そして酪農乳業界とIDFの成功に尽力する全ての専門家の方々にも感謝申し上げます。私たちは共に、生産性と収益性だけでなく、原則に則り人を中心とした酪農乳業界を形作っています。

最後に、前任者であるピエルクリスティアーノ・ブラザーレ氏がIDF会長として成功裏に任期を全うされたことに、この場を借りて感謝申し上げます。特に世界的な新型コロナ危機の中で当連盟の慣行の一部を適応させる必要があった中、過去4年間にわたりIDFを代表し率いるという素晴らしい仕事をしてくださいました。

科学に基づき、持続可能性を指針とし、目的によって結ばれたこの旅を続けましょう。

敬具

ジル・フロマン  
会長

「私たちは共に、生産性と収益性だけでなく原則に則り、人を中心としたものへと形作っています。」

ジル・フロマン  
IDF会長



# 事務総長 からのメッセージ

国際酪農連盟（IDF）事務総長としての最初の1年を振り返ると、協力と科学の変革力が日々実感されます。この二つの柱は私のリーダーシップの歩みを形作っただけでなく、IDFのグローバルな影響力を今も定義し続けています。

2025年、我々は戦略的刷新プロセスに着手しました。科学的卓越性とオープンな関与をミッションの中核に据え、業界内の持続可能な成長を促進するための合意形成を目指すものです。

このプロセスは、世界中から集まった9名の理事によって導かれてきました。各理事は独自の視点を持ちながらも、連盟の未来に向けた共通のビジョンによって結ばれています。彼らが5カ年戦略で合意に至ったことは、私たちのガバナンスの強さと、IDFを特徴づける協力の精神を反映しています。この包括的な旅路は、他の統治機関であるSPCCや各国内委員会、そして献身的なスタッフの貢献によってさらに豊かになりました。総会がこの新たなロードマップを、科学的卓越性へのコミットメントに支えられ、誠実さと包括性を基に活動する、世界の酪農乳業界における信頼される声としてのIDFの役割を強化する大胆な道筋として捉えてくださることを願っています。

「科学は私たちの羅針盤です。栄養、食品安全、動物衛生、環境管理といった分野における私たちの活動を導く指針です。」

ローレンス・ライケン  
IDF事務総長

科学は私たちの羅針盤です。栄養、食品安全、動物衛生、環境管理といった分野における活動を導いています。本年も常設委員会では知識と最新の科学情報を交換し続けるとともに、新たな課題への対応を見据えました。同時に、学際的な対話が不可欠であることが証明されています。酪農乳業界の相互連関性は、意図せざる結果を回避しバランスの取れた進展を保証するため、包括的な対話を必要とします。彼らの取り組みにより、IDFは信頼できる知識源としての役割を継続しています。

しかし科学だけでは不十分です。国境、分野、セクターを越えた協働を通じてこそ、知識は意味ある行動へと変容します。アイルランド、ルワンダ、インドでの活動や、間もなくチリで開催されるワールドデーリーサミットといった現場での経験から得られる知見は、何が機能し何が機能しないかを捉える独自の視点を提供します。効果的な解決策は各状況の現実に適合させねばならないため、こうした地域に根差した視点は不可欠です。

特に誇りに思うのは、チームが日々メンバーと築く信頼関係です。彼らのグローバルな視野は、関わる全ての人々に紛れもない価値をもたらします。私たちは共に、乳製品が世界の食料システムにおいて不可欠で持続可能かつ公平な存在であり続けることを確かなものにしていきます。

新規作業項目提案の厳格な審査からグローバル基準の共同策定まで、皆様の声は私たちの方向性を形作っています。

未来が私たちにもたらす可能性に私は活力を感じています。科学を基盤とし、協働を方法とする私たちは、明日の課題に立ち向かうための確かな基盤を築いています。

ご協力とご尽力に感謝申し上げます。

敬具

ローレンス・ライケン  
事務総長



## 科学・計画調整委員会委員長 からのメッセージ

科学・計画調整委員会（SPCC）委員長としての5年間の任期を終えるにあたり、目覚ましい科学的進歩と協力による成果が得られたこの期間を振り返ることができ、光栄に存じます。国際酪農連盟（IDF）においてこの職責を果たすことは、私の専門職人生において最もやりがいのある経験の一つでした。

2020年以降、SPCCはより機敏で先見性のある組織へと進化を遂げました。科学的厳密性を堅持するだけでなく、世界の酪農乳業界が直面する課題と機会を先取りする組織です。私たちは共にIDFの作業計画を強化し、それが証拠に基づいたものであること、加盟国の優先事項に対応できること、そして世界の政策動向と整合性を保つことを確実にしています。

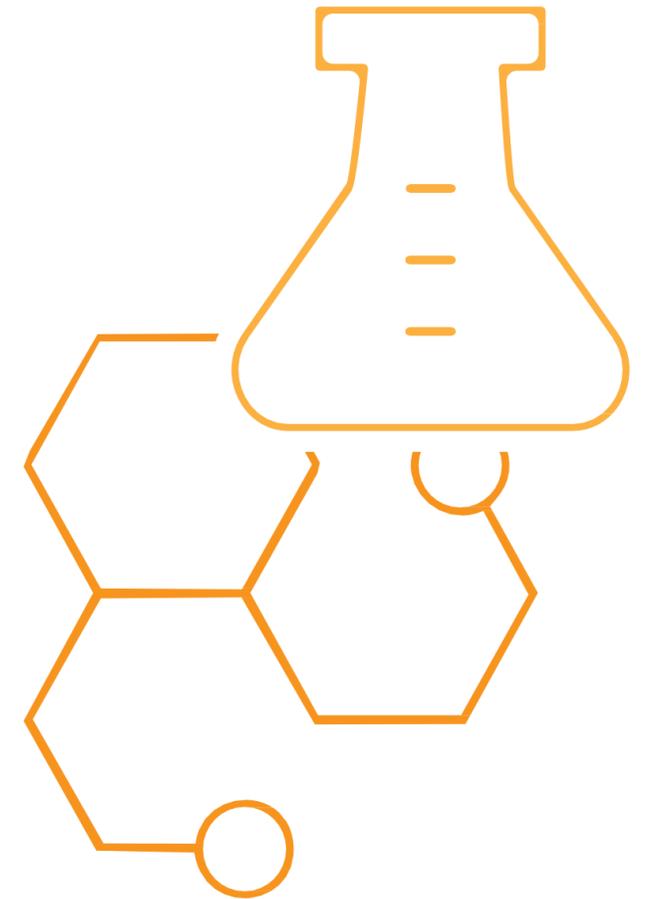
当委員会は、2022-2025年戦略的作業計画の完成や2026-2030年戦略的枠組みの策定を含め、IDFの戦略的方向性を形作る上で極めて重要な役割を果たしてきました。常設委員会、アクションチーム、特別作業部会と緊密に連携し、食品安全、持続可能性、栄養政策、動物福祉、抗菌剤使用といった課題の重要性を高め、コーデックス、WHO、WOAH、国連などの国際フォーラムにおいて酪農乳業の声が確実に届くよう取り組んできました。

しかし技術的な成果以上に、私が最も大切に思うのは、SPCCとIDFコミュニティを特徴づける協力の精神です。私たちの仕事は常に、情熱的な専門家、献身的な各国委員会、そして熱意あるIDFスタッフによって推進される共同の取り組みでした。皆様の信頼、洞察力、そして卓越性への共通の取り組みに深く感謝いたします。

次期委員長へバトンを渡すにあたり、SPCCと連盟の将来に確信を持って臨みます。科学を基盤とし、協働によって強化された我々の築いた基盤は、今後もIDFと世界の酪農乳業コミュニティに大きく貢献し続けるでしょう。

心より感謝を込めて

**ジェイミー・ジョンカー博士**  
科学・計画調整委員会 委員長（2020–2025）



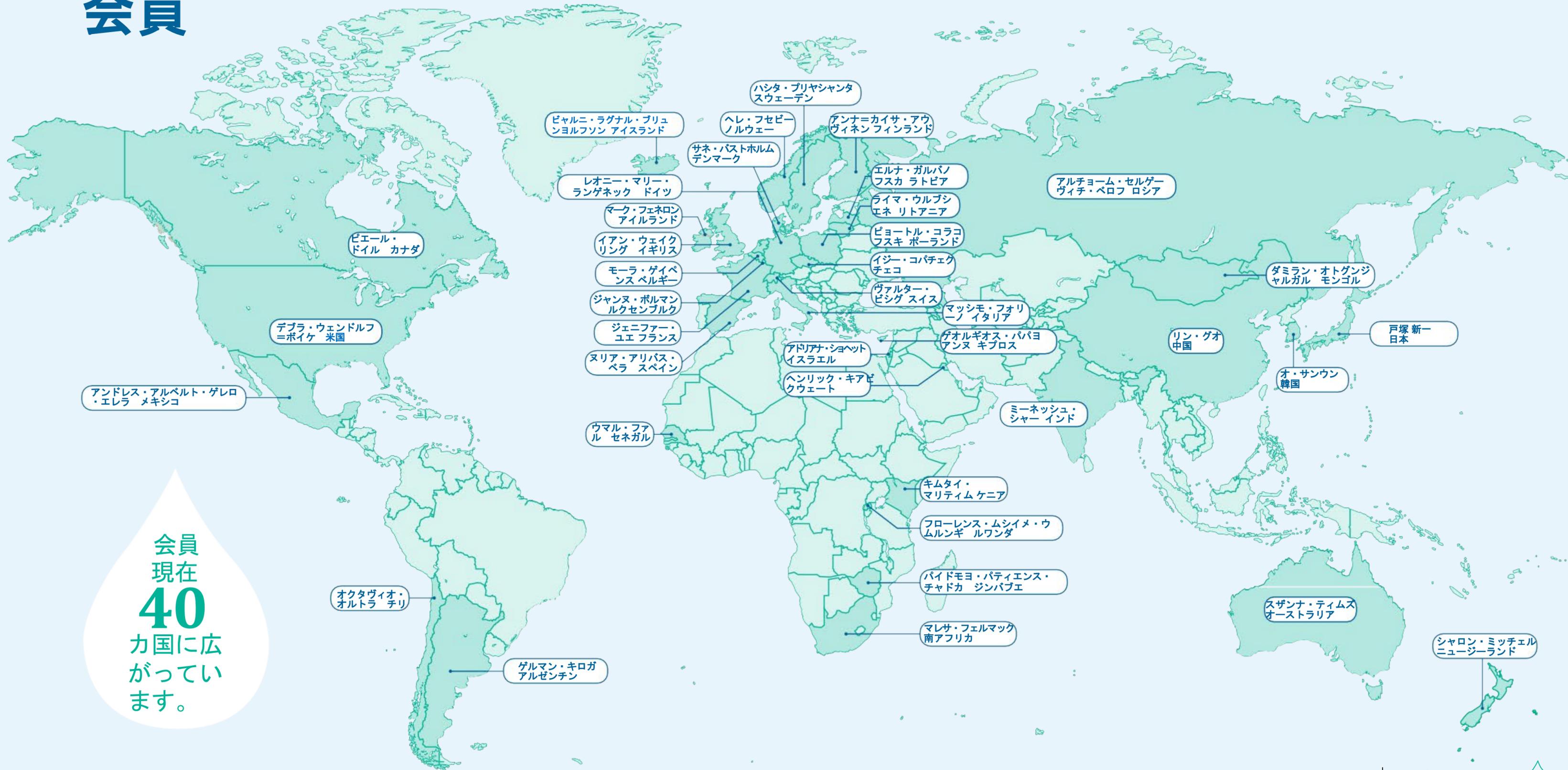
「私が最も大切に思うのは、SPCCとIDFコミュニティを特徴づける協力の精神です。」

ジェイミー・ジョンカー博士  
科学・計画調整委員会委員長



# 会員

IDFの加盟は現在40カ国に広がり、アルゼンチン、オーストラリア、中国、セネガル、スペイン、南アフリカでは新たに国内委員会事務局長が任命されました。スペインとアルゼンチンが準会員として加わったことで、組織のグローバルな展開と多様性をさらに強化しています。



会員  
現在  
**40**  
カ国に広  
がって  
います。

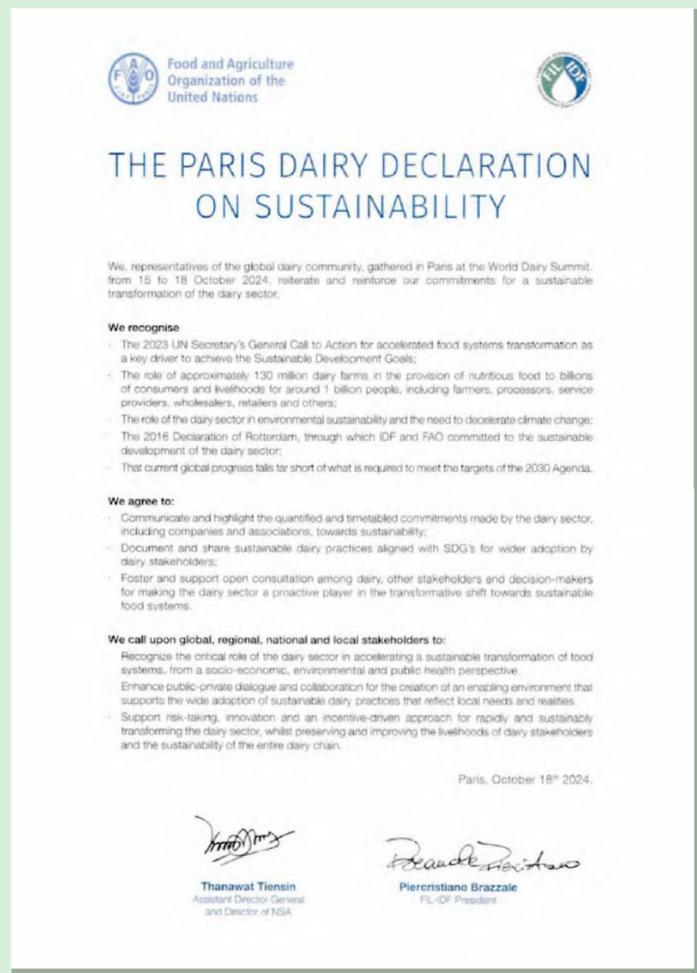
# 持続可能性に関するデーリー・パリ宣言

2024年10月18日、国際酪農連盟（IDF）はパリにおいて「持続可能性に関するIDFデーリー・パリ宣言」を発表し、世界の酪農乳業界は持続可能性への取り組みにおいて新たな一歩を踏み出しました。パリで開催されたIDFワールドデーリーサミット2024（IDFWDS2024）内の「持続可能性に関するIDFリーダーズフォーラム」で発表された本宣言は、ロッテルダム宣言が築いた基盤をさらに発展させ、国連持続可能な開発目標（SDGs）への業界の取り組みを強化するものです。

## 持続可能な変革に向けた共通の取り組み

パリ宣言は、世界の酪農乳業コミュニティの集合的な声を代表し、より持続可能な未来に向けた共通のビジョンを概説するものです。同宣言は以下を要請しています：

- > **可視性と説明責任**：健康、栄養、経済的安定、天然資源管理、気候変動といった分野における、科学的根拠に基づく酪農乳業界の具体的な取り組みを公に提示すること。



- > **持続可能性に関する対話の形成**：社会的、経済的、栄養的、環境的側面を統合した持続可能性の包括的視点の促進。

### > 三重の課題への対応：

- 食料安全保障と持続可能な栄養の確保。
- 酪農乳業界に関わる10億人以上の生計を支援する。
- 酪農乳業システムを変革し、より環境への責任を果たすものとする。

- > **官民連携の促進**：政府、機関、産業界の協働を促し、持続可能な酪農実践のための環境整備を図る。

## 行動と進歩のためのプラットフォーム

国際酪農連盟（IDF）内に、持続可能性に関するパリ・デーリー宣言の目標達成に向けた調整、行動、推進を強化するため、新たな特別作業部会が設置されました。この特別作業部会の支援のもと、本イニシアチブは酪農乳業界が2030年までに貢献するための指針となるロードマップの策定を目指します。



酪農乳業界は持続可能性に取り組むだけでなく、積極的に実現しています。



## 持続可能性に関するデーリー・パリ宣言（続き）

FAOとの協力によるアジェンダ。これは包括的であり、すべての酪農乳業関係者を現状把握プロセスに参画させます。ただし、その取り組みが定量化され、スケジュールが設定され、かつ一般に公開されていることが条件となります。同グループは現在、持続可能性に関する取り組みのグローバルレビューを実施中であり、結果は2025年にチリのサンティアゴで開催されるIDFワールドデーリーサミットで共有される予定です。透明性と関与を促進するため、既存の取り組みを分類し、新たな取り組みの協議と提出を効率化するための専用ウェブページがIDFウェブサイト上に開設されました。

### IDFの役割

1903年より世界の酪農乳業を代表する国際酪農連盟（IDF）は、科学的厳密性と中立性を基に本イニシアチブを主導しています。加盟団体や各国内委員会を通じ、IDFはベストプラクティスの普及を促進し、持続可能な酪農乳業開発に向けた地域に適応した解決策を支援します。

### 今後の展望

持続可能性に関するデーリー・パリ宣言は、政府、意思決定者、そして一般市民に向けて明確なメッセージを発信しています：酪農乳業界は持続可能性への取り組みを約束するだけでなく、積極的に実現しています。国際酪農連盟（IDF）会長や国連食糧農業機関（FAO）代表を含む署名者、そして政府、酪農家組織、業界リーダーからの支持を得て、この宣言は酪農乳業が世界の発展において果たす役割における変革の瞬間を刻むものです。

さらに、宣言署名国が情報を得て積極的に関与できるよう、ニュースレターを作成中です。特別作業部会はまた、[FAO第2回持続可能な畜産変革に関する世界会議](#)、[UNFCCC COP30](#)、[IDFワールドデーリーサミット2025](#)などの主要な国際イベントにおいて、持続可能性に関するデーリー・パリ宣言の普及を推進する準備を進めています。



# 概要



2024年10月

2024年11月



## IDFワールドデーリーサミット 2024

フランス・パリ

IDFは、酪農乳業界の未来について議論するため、ステークホルダーが一堂に会する代表的グローバルイベントを主催します。このサミットは、世界の酪農乳業に関する対話、イノベーション、政策調整の礎となります。

[続きを読む](#)



## FAOイノベーション地域フォーラムーアジア・太平洋

インド・コチ

IDFは「乳製品生産におけるイノベーション」セッションを主催し、地域の持続可能な畜産変革に貢献します。本フォーラムでは、乳製品の生産性と持続可能性を高める地域戦略を重点的に取り上げます。

[続きを読む](#)



## OECD 農業政策・市場作業部会

フランス・パリ

IDFはOECDの農業食品製品のカーボンフットプリント測定に関するワークショップに専門知識を提供し、ライフサイクル分析と持続可能性指標における主導的立場を強化します。



## 第48回コーデックス食品表示部会 (CCFL48)

カナダ・ケベックシティ

IDFは、アレルゲン表示、電子商取引における食品情報、技術を活用した表示、ならびに栄養表示、添加糖、持続可能性表示、緊急表示規定に関する新たな提案についての議論に参加しています。本セッションは、乳製品に影響を与える国際的な食品表示基準の形成において極めて重要です。

[続きを読む](#)



## COP29公式サイドイベント

バクー、アゼルバイジャン

IDFは気候変動対策に向けたアニマルヘルスの推進に関するサイドイベントを共催しました。本イベントでは気候変動への耐性強化における畜産動物の健康管理の役割を強調します。

[続きを読む](#)

## 概要（続き）

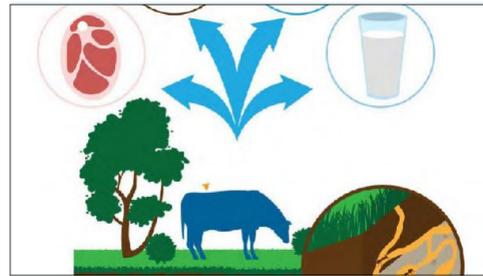


### 第47回コーデックス委員会（CAC47）

イタリア・ローマ

IDFはCAC47における国際食品規格の議論に貢献します。国際的な乳製品規格と安全プロトコルに影響を与える重要なプラットフォームです。

[続きを読む](#)



### LCAツール発表

グローバル

IDFは、酪農乳業の持続可能性を支援する新たなライフサイクルアセスメントツールを発表します。このツールにより、関係者は環境パフォーマンスを測定し、改善することができます。



### 第55回コーデックス食品添加物委員会（CCFA55）

韓国・ソウル

IDFは乳製品分野に関連する食品添加物に関する重要な議論に参加しています。このセッションは、乳製品の配合と貿易に不可欠な添加物規制に影響を与えます。

[続きを読む](#)

2024年12月

2025年1月

2025年3月

2025年4月



### IDF 酪農乳業チェーンにおける循環性シンポジウム2024

バーチャル

酪農乳業分野における畜産と持続可能性の接点を探求します。本シンポジウムは酪農生産システム内での循環型経済原則を推進しました。

[続きを読む](#)



### IDF理事会

南アフリカ

IDFの国際協力とエビデンスに基づく政策立案への取り組みを示します。本会議は世界の酪農乳業リーダーシップにおける戦略的連携とガバナンスを強化します。

[続きを読む](#)



### 栄養と成長に関するサイドイベント

フランス・パリ

IDFはグローバルパートナーと共に乳製品バリューチェーン構築に関するサイドイベントを共催します。本イベントでは、栄養投資と食料システムのレジリエンスにおける乳製品の役割を強調します。

[続きを読む](#)



## 概要（続き）



### IDF/ISO分析 ウィーク2025

インド、アーナンド

本イベントは「調和・技術・革新による持続可能な畜産」をテーマに、15カ国から200名の参加者を歓迎します。

今年のICARと共催の本イベントは、科学的な交流と分析法規格の強化を図ります。

[🔗 続きを読む](#)



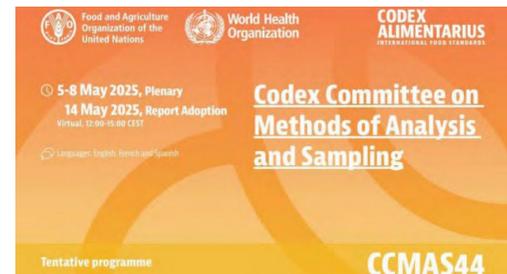
### IDF噴霧乾燥技術と還元 乳製品に関する合同シン ポジウム

アイルランド・コーク

IDFは乳製品加工における技術的進歩をテーマに充実したセッションを開催します。本シンポジウムでは乳製品の配合技術と加工効率の革新を紹介します。

[🔗 続きを読む](#)

2025年5月



### 第44回分析・サンプリ ング法に関するコーデ ックス委員会（ CCMAS44）

バーチャル

IDFは乳製品に関連する分析手法に関する議論に貢献しています。本セッションは乳製品品質保証のための試験プロトコルの調和を確保します。

[🔗 続きを読む](#)

2025年6月



### 第92回国際獣疫事務局 （WOAH）第92回総会

フランス・パリ

IDFは動物衛生と食品安全に関する国際的な議論に参加しています。本セッションは、乳製品の衛生基準を世界の獣医学的慣行と整合させる上で極めて重要です。

[🔗 続きを読む](#)

## 概要（続き）



**IDF栄養と健康シンポジウム2025—バーチャル**

Exploring the role of dairy and plant-sourced foods for nutrition and healthy diets

20 May | Online

バーチャル

健康的な食事における乳製品と植物性食品の役割に焦点を当てます。本シンポジウムでは、公衆衛生の成果向上に向けた食事戦略を探求します。

[🔗 続きを読む](#)



**世界牛乳デー**

グローバル

[栄養と生計における牛乳の重要性を称える。健康と経済への乳製品の貢献に関する認識を高めるための世界的なキャンペーン。](#)

[🔗 続きを読む](#)



**世界食品安全デー：食品安全、科学の実践**

バーチャル

IDFは乳製品の加工が食品安全性に果たす役割に関するウェビナーを開催します。本ウェビナーでは、乳製品の安全性と品質を確保するための科学的アプローチに焦点を当てます。

2025年6月

2025年7月



**IDFアフリカ地域乳業会議2025**

ルワンダ、キガリ

食料安全保障と経済成長における酪農の役割を強調。「繁栄するアフリカのための持続可能な酪農乳業」と題した本イベントでは、地域開発と酪農乳業インフラへの投資が重点的に議論されました。

[🔗 続きを読む](#)



**IDF中間理事会**

ベルギー・ブリュッセル

IDFの統治機関間の連携強化。これらの会合は戦略的な一貫性と業務上の整合性を確保します。



**コーデックス食品汚染物質に関する第18回会合 - タイ・バンコク**

タイ・バンコク

IDFは食品安全と公衆衛生に関する重要な議論を監視しています。本セッションでは食品安全に不可欠な汚染物質管理対策について取り上げます。

[🔗 続きを読む](#)

## 概要（続き）



### 第2回国連食料システムサミット進捗評価会合（UNFSS+4）

エチオピア、アディスアベバ

IDFは、持続可能な食料システムに関する国際対話に参加しています。サミットでは進捗状況を検証し、食料システムの変革に向けた優先事項を設定します。

[続きを読む](#)



Let's celebrate  
World School  
Milk Day 2025!  
Join the celebration  
#WorldSchoolMilkDay2025  
#SchoolMilkMatters

### 世界学校給食デー

グローバル

IDFは乳が子どもの栄養と発達に果たす役割を称えます。本イベントは、青少年の健康改善手段としての学校給食プログラムを推進します。

[続きを読む](#)



### FAO 持続可能な畜産変革のためのグローバル会議

ローマ、イタリア

IDFは持続可能な畜産システムに向けたグローバル戦略に貢献しています。本会議は畜産の持続可能性と革新に向けたアジェンダを設定します。

[続きを読む](#)

2025年8月

2025年9月

2025年10月



### IUNS-ICN 2025におけるIDF科学シンポジウム

フランス・パリ

食料安全保障と経済成長における酪農乳業の役割を強調。「繁栄するアフリカのための持続可能な酪農乳業」と題された本イベントでは、地域開発と酪農インフラへの投資が焦点となった。

[続きを読む](#)

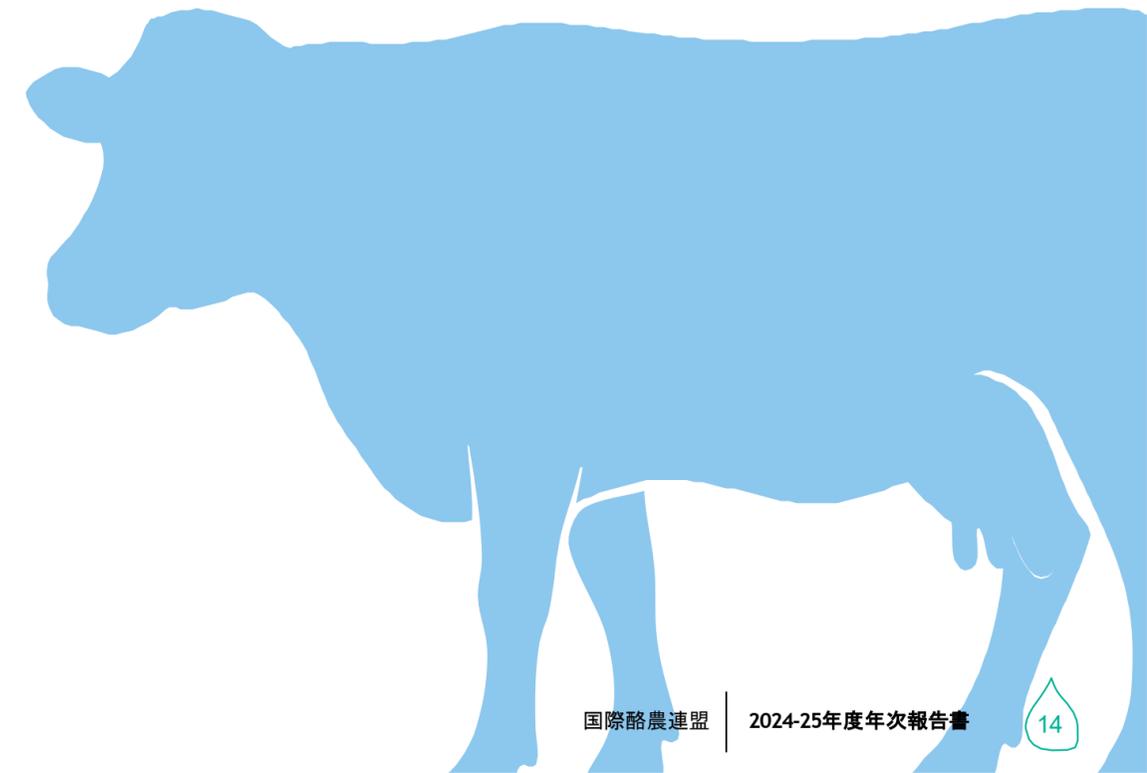


### FAO LEAPガイドラインの発表

イタリア・ローマ

IDFが主導するFAOの新たな「家畜システムにおける生態系サービスに関するLEAPガイドライン」が発表されました。これらの科学に基づくツールは、自然環境に配慮した家畜生産を支援するものであり、FAO主催の「持続可能な家畜生産変革に関するグローバル会議」で初公開されます。

[続きを読む](#)







# 国際酪農連盟 (IDF) について

国際酪農連盟 (IDF) は、世界の酪農乳業界の最前線に立ち、安全で栄養価が高く持続可能な高品質な牛乳・乳製品の生産を確保するため、最先端の科学的専門知識の活用を推進しています。IDFはまた、動物の健康と福祉における卓越性の促進、ならびに酪農乳業バリューチェーン全体におけるベストプラクティスの普及に取り組んでいます。

## IDFの目的

安全で栄養価が高く持続可能な乳製品を通じて世界の人々を育むため、世界の酪農乳業界をつなぎ、その力を引き出すこと。

## IDFのビジョン

世界中の人々に安全で栄養価が高く、持続可能かつ入手しやすい乳製品を提供するため、世界の酪農乳業界を支援すること。同時に、農業コミュニティや酪農乳業バリューチェーン全体において、経済的・社会的な活力の源泉となること。

## IDFのミッション

科学的知見に基づく酪農乳業の専門知識と知見を収集・共有・応用し、国内外における政策立案と基準設定に資することで、世界の酪農乳業界を強化すること。

## IDFの役割

- > 権威ある科学に基づく専門知識を提供する。
- > 世界の酪農乳業コミュニティ全体の合意形成を図る。
- > 政府間組織に対して酪農乳業のグローバルな声として働きかけ、加盟国の国内活動のためのアドボカシーツールを提供する。
- > ツール、研修教材、および協働イニシアチブの開発を通じて、能力構築に貢献する。これらは、理解と実施を支援するツール、研修教材、協働イニシアチブの開発を通じて能力構築に貢献する。

# 1903年創業のグローバルな酪農乳業専門知識

## 戦略的要請事項



### 国際基準と政策への影響力

国際基準と科学的根拠に基づくグローバル政策への貢献により、酪農乳業バリューチェーンにとって持続可能な環境を育む。



### 実施とガイダンスの支援

国際規格の実施を支援し、安全で持続可能かつ栄養価の高い乳製品を提供するための実践的なガイダンス、方法論、ツールを開発する。



### 持続可能な食生活における乳製品の役割を提唱する

持続可能な方法で生産された乳製品が健康的な食事に果たす役割について、科学的根拠に基づく情報を促進する。これには、社会経済的影響、環境管理、動物福祉、栄養への取り組みが含まれ、持続可能な食料システムと国連の持続可能な開発目標 (SDGs) を支援する。



### IDFの国際的認知度を高める

IDFの酪農乳業分野における国際的な専門知識の拠点としての地位を強化し、同分野における継続的な重要性とリーダーシップを確保する。

\*2025年年次報告書に記載された全活動は、当期間における組織の優先事項と目標を定めた「IDF戦略2022-2025」の指針のもとで実施されました。

## 政策および規格への貢献

国際食品規格委員会（Codex Alimentarius Commission）、世界保健機関（WHO）、国連食糧農業機関（FAO）、国際獣疫事務局（WOAH）などの国際機関に対し、IDFの科学的・技術的立場を示す報告書または正式な提出書類の作成。

## IDF刊行物

ファクトシート、IDFブリテン、意見書、査読付き出版物を通じたガイダンス、ベストプラクティス、共同研究報告書、その他の技術的専門知識の普及。牛乳および乳製品の分析法およびサンプリング法に関する IDF/ISO 合同規格の出版。

## 作業計画

IDFは、世界の酪農乳業界にとって戦略的に重要な課題に取り組む体系的な事業計画を通じて、その使命を果たしています。この計画はIDF加盟国によって承認され、IDFの専門家作業部会によって実施されます。連盟の専門分野と戦略的優先事項に沿った多様な活動を網羅しています。\*

## 科学技術イベント

IDF主催イベント（シンポジウム、セミナー、ウェビナー、会議、ワークショップなど）における知識交流とステークホルダーの関与を促進するプログラムの開発と実施。

## 内部報告書およびブリーフィング

特定の技術的・政策課題に関する報告書を、国内委員会またはIDF内部機関向けに作成し、情報に基づいた意思決定と調整を支援する。

\*本事業は、IDF戦略2022-2025およびその戦略的作業計画に基づき実施される。戦略目標は一つ以上の行動によって定義され、定められた期限までに評価される主要業績評価指標（KPI）が伴う。

## IDF戦略目標（2022–2025）

<p><b>SG 1</b></p> 	<p>IDFの酪農乳業に関する専門知識と助言を効果的に活用し、関連する政府間機関（FAO、コーデックス、WOAH、UNEPなど）に伝達することで、酪農乳業バリューチェーン全体に利益をもたらす。</p>	<p><b>SG 2</b></p>  <p>IDFの酪農乳業に関する知識、専門性、助言を効果的に活用し、関連する非政府国際機関・地域機関（ISO、ICAR、ISDIなど）に伝達することで、酪農乳業バリューチェーン全体に利益をもたらす。</p>	<p><b>SG 3</b></p>  <p>持続可能性と食料安全保障：持続可能な食料システムと国連持続可能な開発目標（SDGs）における酪農乳業の役割を積極的に推進する。</p>
<p><b>SG 4</b></p> 	<p>栄養と健康：乳製品の栄養密度による健康効果を実証し、全ての人の健康増進のために乳製品消費を促進する。</p>	<p><b>SG 5</b></p>  <p>環境：酪農乳業界の環境負荷を低減する措置を促進・推進すると同時に、生態系サービスへの積極的貢献を拡大する。</p>	<p><b>SG 6</b></p>  <p>安全性と品質：酪農乳業サプライチェーンにおける食品安全性と食品品質の提唱・推進。乳製品に関するコーデックスで定義される食品の真正性の擁護。</p>
<p><b>SG 7</b></p> 	<p>酪農：酪農家に、動物の健康や福祉を含む持続可能な農業慣行に関するガイダンスやツールを提供することで、経済的に持続可能で社会的に責任ある酪農を支援する。</p>	<p><b>SG 8</b></p>  <p>酪農乳業界がサプライチェーン全体の社会経済的持続可能性を達成するための知識を提供する。</p>	<p><b>SG 9</b> <b>SG 9.5</b></p>  <p>IDFは効率的で回復力があり、影響力のある科学に基づく組織である。関与とエンパワーメントをもたらすコミュニケーションを実現する。</p>

以下は、過去12か月間に実施されたIDFの活動がこれらの戦略目標にどのように貢献したかを示す報告書と事例です。  
IDF作業計画の各作業項目は、少なくとも1つ以上の戦略目標を満たしています。





IDFの酪農乳業に関する専門知識と助言を効果的に活用し、関連する政府間機関（FAO、コーデックス、WOAH、UNEPなど）に伝達することで、酪農乳業バリューチェーン全体に利益をもたらす。

### 酪農用語の保護と促進

IDFの規格に関する作業計画における主要な優先事項は、[酪農用語の使用に関するコーデックス一般規格（GSUDT）](#)の継続的な支援と推進です。1999年にコーデックス委員会（CAC）によって制定され、IDFの意見を取り入れて策定されたGSUDTは、酪農用語が牛乳および乳製品に限定されることを保証し、消費者を誤解を招く表示から保護します。酪農用語の保護に関する取り組みは、[IDFブリテン第507号/2020](#)および[2020年11月に公表された意見書](#)により進展しました。これに続き、[IDFブリテン第521号/2022](#)では、各国規制の詳細な分析と、様々な法制度におけるGSUDTの実施状況が提供されました。

GSUDT（酪農用語の使用に関する一般規格）を担保する取り組みの具体例として、IDFは植物由来食品に関するISO/TC 34/WG 26や細胞技術製品に関するISO/TC 34/WG 30といったISO作業部会に積極的に参加し、酪農用語が誤用されないよう確保しています。2025年、IDFは[細胞農業製品における酪農用語に関する意見書](#)を発表し、乳製品との区別を明確にするための表示の必要性を強調しました。

### IDFとWHOの連携

IDFは、飽和脂肪酸およびトランス脂肪酸の摂取やナトリウム摂取量に関する主要なガイドラインなどについて、公的協議への貢献や意見書の作成を通じて、世界保健機関（WHO）と様々な経路で積極的な関与を維持しています。WHOが2021年および2024年の栄養健康シンポジウム、2024年のワールドデーリーサミットなどIDFイベントに参加していることは、この協力関係を反映しています。2025年、IDFはWHOとの連携を効率化するための新たな作業項目を承認しました。

2024年11月のコーデックス委員会採択により、GSFAは乳及び乳製品における食品添加物の唯一の基準となりました。

### 酪農生産における抗菌剤の慎重な使用

抗菌薬耐性（AMR）は差し迫った世界的な健康脅威です。IDFは、酪農乳業サプライチェーン全体における責任ある抗菌薬使用のためのガイドとなる「[IDFブリテン第536号/2025](#)」を発表しました。本ガイドは国際獣疫事務局（WOAH）、国連食糧農業機関（FAO）、国際家畜研究所（ILRI）の協力を得て作成され、関係者のための優良事例を提示するとともに、エビデンスに基づく意思決定、バイオセキュリティ、ワクチン接種、トレーサビリティ、規制監督を強調しています。これは2024年の国連抗菌薬耐性に関する政治宣言に沿ったものであり、抗菌薬の使用

削減と獣医療サービスへの投資に関する公約を支援するものです。2024年の国連総会抗菌薬耐性（AMR）ハイレベル会合を受け、2030年までに世界のAMRによる死亡を10%削減するとの政治宣言が採択されました。ジェイミー・ジョンカー博士らで構成されるAMRに関するグローバル・リーダーズ・グループは、これらの公約の実施に注力し、抗菌薬耐性対策のための証拠に基づく行動に関する独立パネル（IPEA）を設立しました。

### 食品添加物規定の整合化

2024年4月に開催された第54回コーデックス食品添加物部会は、34のコーデックス乳製品規格における食品添加物規定を「食品添加物一般規格（GSFA、CXS192）」に整合させる主要プロジェクトを完了しました。2017年から議題となっていた本作業は、不整合や貿易問題の回避を目的としていました。2024年11月のコーデックス委員会採択により、GSFAは牛乳・乳製品における食品添加物の唯一の基準となります。この成果は20年以上にわたり貢献した専門家たちによって実現しました。これらの規定の調和は、混乱の軽減、貿易の簡素化、一貫した食品安全性と品質の確保を通じて乳業に利益をもたらす、国連持続可能な開発目標（SDGs）の[目標3](#)、[8](#)、[12](#)、[17](#)を支援するものです。



IDFの酪農乳業に関する知識、専門性、助言を効果的に活用し、関連する非政府国際機関・地域機関（ISO、ICAR、ISDIなど）に伝達することで、酪農乳業バリューチェーン全体に利益をもたらす。

国際酪農連盟（IDF）は、酪農乳業バリューチェーン全体に利益をもたらすため、国際標準化機構（ISO）、国際家畜記録委員会（ICAR）、国際特別食品産業（ISDI）などの非政府国際機関および地域機関と積極的に連携しています。この協力関係により、IDFの酪農乳業に関する知識、専門技術、助言が効果的に伝達され、活用されることが保証されています。

### IDF/ISO コラボレーション

60年以上にわたり、IDFはISOと連携し、乳および乳製品の分析法・サンプリング法に関するIDF/ISO合同規格を開発してきました。これらの規格は、IDFの4つの分析系常設委員会がISO/TC34/SC5と連携して策定しています。この独自の連携は、IDFの専門性とISOの認知度を最大限に活用し、IDFの4つの柱（規格、安全性と品質、栄養と健康、持続可能性）に沿ったものです。また、戦略目標（SG2、SG6、SG9を含む）の複数を支援しています。

このパートナーシップにおける主要な取り組みは、IDFとISO/TC34/SC5が主催する年次イベント「分析ウィーク」です。このイベントは、乳製品検査室管理者、科学者、分析専門家間のネットワーキングを促進し、合同規格の開発を推進するとともに、新たな取り組みを開始するものです。

2022年から2025年にかけて、IDFとISOは水分、脂肪、官能分析、アミノ酸、アルカリホスファターゼ、微生物学を扱う新規または改訂規格を17件を出版しました。

乳および乳製品における脂肪分測定は、栄養、価格設定、規制順守、品質管理において重要なパラメータである。最近、IDFとISOは参照方法を改訂し、10の規格を2つに統合しました：[ISO 23318 | IDF 249:2022（牛乳、乾燥乳製品、クリーム用）](#) および [ISO 23319 | IDF 250:2022（チーズ、加工チーズ製品、カゼイン及びカゼイン酸塩用）](#)

もう一つの重要な更新は、[乳製品中のビフィズス菌の計数に関するISO 29981 | IDF 220:2024](#)の改訂である。この改訂では培地が拡張され、国際共同研究（[IDF N°530/2024号ブリテン](#)に詳述）を通じて有効性が確認されました。



IDFはまた、コーデックス規格の検証方法および貿易紛争解決手法を審査・承認する機関であるコーデックス分析・サンプリング方法部会（[CCMAS](#)）においても重要な役割を担っています。

最近、CCMASはCXS 234を審査し、IDFとISOの積極的な参加により、まず牛乳および乳製品に焦点を当てました。これにより、[乾燥乳製品中の水分測定に関するISO 5537|IDF 26](#)が改訂され、現在では乳児用調製乳やデリーパーミエイト粉末などの拡張マトリクスでも検証が確立されています。

本レビューはコーデックスに列挙された乳製品分析法の検討を結論づけませんが、IDFはさらなる標準化ニーズを特定するためギャップ分析を継続します。ISOを超えて、IDFは特に「乳児用調製乳及び成人用栄養食品に関するステーキホルダーパネル（SPIFAN）」を通じ、AOACインターナショナルと共同で規格を開発し重複を回避しています。これらの規格はしばしば検証のためコーデックスに提出されます。

さらに、ISDIは乳児用調製乳の試験方法に関する包括的なデータベースを調整し、特別用途食品の分析方法に関するワンストップサービスを提供しています。この取り組みにより、乳製品の試験における透明性とアクセシビリティが向上します。

**IDFは、コーデックス規格の検証方法の審査と承認を行うコーデックス分析・サンプリング法部会（CCMAS）において重要な役割を担っています。**



持続可能性と食料安全保障 > 持続可能な食料システムと国連持続可能な開発目標（SDGs）における酪農乳業の役割を積極的に推進する。

持続可能性と食料安全保障のあらゆる側面（栄養、環境保護、動物の健康と福祉、社会経済的安定を含む）において関連情報を提供し支援するという戦略的目標の一環として、IDFは一連のイベントに積極的に関与しました。これらは知識交換と協力のための重要なプラットフォームとして機能し、IDFが国内および国際的な取り組みにおいて加盟国を支援することを可能にしました。

ライフサイクルアセスメントのための栄養指標

栄養をライフサイクルアセスメント（nLCA）に統合することは、特定の栄養素だけでなく製品の栄養的貢献を包括的に捉える必要がある複雑な課題です。現在、既存のnLCAに容易に適用可能な形で、食品カテゴリーの栄養価を完全に把握できる単一の指標は存在しません。複数指標アプローチが不可欠です。IDFは2023年に意見書を公表し、この分野におけるFAOの取り組みを支援してきました。食品の標準化されたnLCAは現在も開発中ですが、食品間の有意義かつ妥当な比較を保証するための指針が明らかに必要です。これに対応するため、IDFは将来の取り組みを導き調和させる一連の指針原則を策定しました。



中核となる原則では、栄養価は包括的かつ科学に基づく方法で考慮され、比較はカテゴリーベースで行われ、全ての評価は栄養と健康に関する最新の科学的知見と整合性が取れている必要があることを強調しています。

持続可能性と食料安全保障

IDFは、持続可能な食料システムにおける乳製品の役割と国連持続可能な開発目標（SDGs）の達成を積極的に推進しています。IDFのグローバル専門家ネットワークは現在、生態系サービスに関する共通認識の確立と、乳製品生産の独自性に関する情報収集に取り組んでいます。IDFアクションチームは、家畜システムにおける生態系サービス評価に関するFAO LEAPガイドラインの策定を主導しました。

このガイドラインは、家畜サプライチェーン全体における生態系サービスの特定、定量化、評価に向けた調和のとれた科学に基づくアプローチを提供します。本ガイドラインは、2025年9月29日にイタリア・ローマのFAO本部で開催される「[持続可能な畜産変革に関するFAOグローバル会議](#)」において正式に発表されます。包括的なマルチステークホルダープロセスを通じて策定され、確固たる科学的レビューに基づく本ガイドラインは、政策と実践の両方に情報を提供することを目的としています。畜産システムの環境的便益と依存関係を評価するための実践的なツールと知見を提供し、畜産を持続可能かつ自然環境に好影響を与える成果と調和させる世界的な取り組みに貢献します。

食料システムに関する特別作業部会

[国連食料システムサミット+4 中間評価会議](#)が今年アディスアベバで開催されました。IDFは食料システム特別作業部会を通じ、複数のチャンネルで関与し、酪農乳業界の代表性を確保しました。さらに、IDFはグローバル持続可能な畜産連合のメンバーとして、サミットにおいて「サハラ以南アフリカにおける食料システム変革の加速：投資・革新・レジリエンスのきっかけとしての畜産」と題するサイドイベントを共催しました。

このイベントでは、IDFのアフリカにおける学校給食プログラムへの貢献とIDF学校牛乳知識ハブが紹介されました。これらの取り組みを通じて、IDF食料システム特別作業部会は、持続可能な食料システム変革への乳製品の組み込みを提唱し、国際的に会員の利益を代表する姿勢を堅持しています。

固形廃棄物管理

IDFは、乳製品加工段階における液体・固体有機廃棄物管理の課題に取り組む実例とベストプラクティスを紹介するインタラクティブなウェブページの開発を進めています。

## SG 4



**栄養と健康** > 乳製品の栄養密度による健康効果を実証し、全ての人の健康増進のために乳製品消費を促進する。

IDFは、乳製品が全年齢層の健康的な食事における重要な構成要素であり続けるよう、科学的根拠に基づく栄養政策を積極的に推進し、栄養格差の解消に貢献しています。当機構の活動は、乳製品の栄養的価値と、健康的で持続可能な食習慣におけるその役割に関する理解を深めることに重点を置いています。さらにIDFは、乳製品科学と、それが栄養および公衆衛生に与えるプラスの影響に関する認識向上に取り組んでいます。

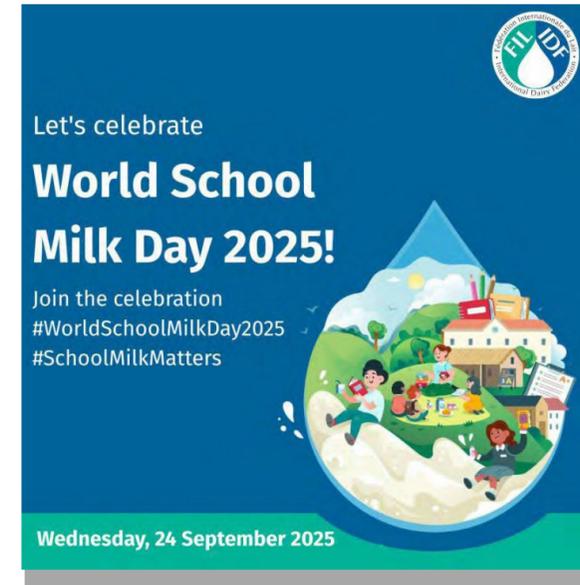
### 乳製品マトリクス

栄養素中心から食品中心への研究の転換は、食品の健康効果は個々の栄養素の有無を超えたものであることを認識するものです。この進化の中心にあるのは食品マトリクスの概念であり、食品の栄養的・健康的影響はしばしばその個々の成分の総和を超えることを強調しています。乳製品分野では、健康効果は特定の栄養素を超え、乳製品マトリクスに関連する予期せぬ健康効果をもたらすことを意味します。IDFはこの分野で顕著な進展を遂げており、学術誌『Nutrients』に掲載された査読付き論文「[乳マトリクス：その重要性、定義、および栄養と健康の文脈における現在の応用](#)」や、[牛乳](#)、[チーズ](#)、および

[ヨーグルト](#)のマトリクス。主要イベント（[第23回国際栄養学会 \(IUNS-ICN 2025\) におけるIDFシンポジウム](#)を含む）で乳製品マトリクスの知見を共有するための戦略計画が策定されました。

### 学校給食牛乳プログラム

学校給食プログラムは、貧困と栄養不良との闘いを支援すると同時に、子どもの教育と福祉を支える重要な安全網です。牛乳、ヨーグルト、チーズなどの乳製品は、成長を支え非感染性疾患のリスクを低減する必須栄養素を提供する。これらのプログラムの重要性を踏まえ、包括的な調査データの収集は極めて重要である。IDFは過去31年間にわたり、SMPs（学校向け粉乳）の開発と改善に関する知見を提供してきました。2024年の調査によると、104カ国で2億1000万人以上の子どもが学校プログラムにおける牛乳・乳製品の恩恵を受けています（[IDFブリテンN° 531/2024](#)）。IDFは、[特にIDFスクールミルクナレッジハブ](#)などの取り組みを通じて、科学的知見の普及と優良事例の共有により、学校給食プログラムへの乳製品の導入を推進し続けています。



**牛乳、ヨーグルト、チーズなどの乳製品は、成長を支え、非感染性疾患のリスクを低減する必須栄養素を提供します。**

### 乳タンパク質

栄養、持続可能性、食品安全、基準における食事性タンパク質の中心的役割を認識し、IDFは世界の食料システムにおける乳タンパク質の重要性を守るための包括的アプローチを推進しています。2024年、IDFは「タンパク質転換における乳製品の位置付けに関する特別作業部会」を発足させ、タンパク質転換の狭義の焦点からより広範な食料システム転換への移行を促進するとともに、持続可能性のあらゆる側面における乳製品の価値を強調しています。

信頼性の高いタンパク質含有量および品質の測定・比較を支援するため、解散したIDFの「酪農の視点からのタンパク質特別作業部会」は、タンパク質定量化と品質評価に用いられる様々な手法を概説した詳細な内部報告書を作成しました。ISOとの協力のもと、IDFは新たな規格の開発にも貢献し、乳タンパク質含有量の評価における科学的厳密性を確保しています。これには栄養補助食品および乳製品におけるアミノ酸測定に関する[ISO 4214 | IDF 254: 2022](#)が含まれます。

これらの取り組みは、窒素変換係数とタンパク質品質に関するこれまでの研究に基づいています。



**環境** > 酪農乳業界の環境負荷を低減する措置を促進・推進すると同時に、生態系サービスへの積極的貢献を拡大する。

国際酪農連盟（IDF）は、世界の酪農乳業界全体における環境持続可能性の推進に取り組んでいます。当連盟は、業界の環境負荷を低減し生態系への積極的貢献を強化する取り組みを促進・支援しています。主な活動として、持続可能性評価の標準化とIDF手法との整合性を確保するライフサイクルアセスメント（LCA）検証フレームワークを通じた、IDFカーボンフットプリント基準の継続的開発・実施が挙げられます。

IDFはまた、環境影響と栄養影響の両方を統合する包括的アプローチを反映した、栄養ライフサイクルアセスメント（nLCA）の指針原則の進化にも貢献しています。当団体の活動は、メタン管理、生態系サービスイニシアチブへの積極的関与、グローバルガイドライン策定への協働にまで及び、これら全てが乳業セクターをより持続可能な未来へ導くというIDFの取り組みを裏付けています。



### 酪農乳業における温室効果ガス排出量の測定と削減：ライフサイクルアセスメントを通じたグローバルな整合性の推進

酪農乳業分野における温室効果ガス（GHG）排出量の正確な測定と削減には、包括的な製造過程全体（製造から廃棄まで）の視点が必要です。酪農生産におけるライフサイクル段階の相互関連性により、ある段階での排出削減が別の段階での排出増加を招く可能性があります。この複雑性に対処するため、ライフサイクルアセスメント（LCA）、特にカーボンフットプリントは、酪農乳業システムの環境影響全体を評価する世界的に認められた手法となっています。

IDFは、酪農乳業分野におけるカーボンフットプリントのグローバルな整合性推進において主導的役割を果たしてきました。過去数年にわたり、IDFは酪農乳業に特化した堅牢なカーボンフットプリント評価基準を開発しました。17カ国から50名以上の専門家チームによって作成されたこの基準により、世界中のカーボンフットプリント専門家が一貫性と科学的信頼性を備えたLCAを実施することが可能となります。この新たな手法は、インド・デリーで開催された「IDFワールドデリーサミット2022」の特別セッションにおいて正式に発表されました。

2025年1月より、ユーザーは既存のLCA手法を[IDF LCA検証フレームワークv1.0](#)を用いて[IDFブリテン第520号/2022](#)に照らして検証可能となり、農場ゲート

**IDFは、酪農乳業界の環境負荷を低減し、生態系への積極的な貢献を高める取り組みを促進・支援します。**

までのコンプライアンスをサポートしています。この検証プロセスは、世界の酪農乳業界全体でカーボンフットプリント計算を拡大・調和させるために設計されています。牛乳・乳製品のカーボンフットプリント計算を紹介する[ウェビナー](#)や[検証プロセス](#)の詳細解説を含むフレームワークと支援資料は、すべてのユーザーが無料で利用できます。

IDFは、世界的な連携を促進し検証のための実践的なツールを提供することで、酪農乳業界が温室効果ガス排出量を正確に測定・比較・削減する能力を強化しています。この取り組みは、業界の環境管理への取り組みを支え、国際的な気候目標の達成を支援する基盤となっています。



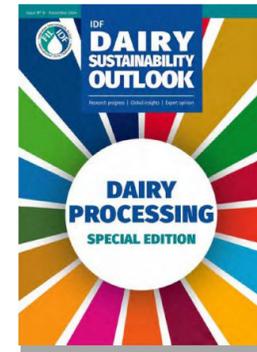
**安全性と品質 > 酪農乳業サプライチェーンにおける食品安全性と食品品質の提唱・推進。乳製品に関するコーデックスで定義される食品の真正性の擁護。**

国際酪農連盟（IDF）は、対象を絞った能力構築イニシアチブを通じて、世界の酪農乳業界全体における知識とベストプラクティスの推進に取り組んでいます。これらの取り組みにより、乳業界は常に情報を得て、回復力を保ち、世界中の消費者や規制当局の進化する期待に応える準備が整った状態を維持します。

主な貢献としては、コーデックス食品衛生部会のもとで「水の使用と再利用に関するコーデックスガイドライン」の乳製品付属書の共同主導、および優先的な懸念汚染物質に関する実践的ガイダンスを提供するIDF汚染物質知識プラットフォームの継続的な活動が挙げられます。同プラットフォームからの最近の出版物は、塩素酸塩、塩素、次亜塩素酸塩残留物といった重要課題を取り上げており、食品安全と規制整合性に対するIDFの取り組みを強化しています。

**乳製品加工**

乳製品加工は、食品の安全性の確保、保存期間の延長、栄養価の向上、食品廃棄物の削減において極めて重要な役割を果たしています。科学に基づくアプローチの重要性を認識し、IDFは乳製品加工に関する指針の策定と、乳業界におけるその本質的な役割の認知向上に積極的に貢献してきました。[IDFファクトシート第37号/2024](#)では、IDFは、殺菌や発酵などの



加工技術が、乳の安全と品質を確保するだけでなく、消化性を向上させ、乳製品の栄養的完全性を維持する上で極めて重要であることを強調しています。これらの方法は、世界中で乳製品を安全に利用可能にするための鍵となるものです。

IDFはまた、牛乳の加熱処理、その牛乳組成への影響、および微生物学的安全性における重要性に焦点を当てた詳細な科学的レビューを『[IDFブリテン第516号/2022](#)』に掲載しました。本報告書は、適切に適用された場合、加熱処理が消費者を保護しつつ、牛乳の核となる栄養特性を保持することを確認しています。

IDFはまた、一部の乳製品における殺菌の指標となるアルカリホスファターゼの測定に関するIDF/ISO規格（[ISO 11816-1 | IDF 155-1: 2024](#)および[ISO 11816-2 | IDF 155-2: 2024](#)）を策定・改訂し、[ファクトシート](#)において各手法の使用タイミングに関するガイダンスを提供しました。IDFは『[IDF酪農乳業持続可能性見通し第8号 - 乳製品加工](#)』において、持続可能な乳製品加工におけるイノベーションとベストプラクティスの事例を提示しました。解散したIDF加工特別作業部会では、現行の加工関連作業計画における不足要素を特定するためギャップ分析を実施しました。その後、複数の常設委員会がこれらの課題を自らの任務に組み込み、この重要分野への継続的な注力を確保しています。

**乳製品生産における水の使用と再利用**

[コーデックス食品生産・加工における水の安全な使用と再利用に関するガイドライン](#)—乳及び乳製品に関する附属書がコーデックスにより最終化され、附属書3として入手可能となりました。本乳製品附属書は、一般ガイドラインを補完する形で、酪農乳業界における水の使用と再利用に関する具体的な推奨事項及び事例を提供します。本文書は一次生産者、乳製品加工業者、管轄当局に有益であり、最終的には消費者と水資源の最適化に寄与します。コーデックス委員会では、目的適合水や水安全管理に関する推奨事項など、他の技術分野におけるさらなる開発が必要であり、IDFがEUと共同議長を務め、インド、モロッコ、モーリタニア、ホンジュラスと共に作業を継続しています。これらは乳製品に特化した内容ではないですが、乳製品付属書の初稿から抽出された事項であり、酪農乳業界からのさらなる検討と意見が必要となります。加えて、コーデックス文書が微生物学的危害のみを扱っているため、IDFは現在、このテーマに関する包括的なガイダンスを提供する補足文書を作成中です。本テーマの専門家は引き続き貢献を歓迎され、関連するIDF国内委員会を通じて参加することが可能です。

**IDFは、世界の酪農乳業分野における知識とベストプラクティスの推進に取り組んでいます。**



**酪農** > 酪農家に、動物の健康や福祉を含む持続可能な農業慣行に関するガイダンスやツールを提供することで、経済的に持続可能で社会的に責任ある酪農を支援する。

国際酪農連盟（IDF）は、実践的なガイダンス、専門的なツール、協働プラットフォームを通じて、経済的に持続可能で社会的に責任ある酪農の推進に取り組んでいます。私たちの取り組みは、動物の健康と福祉を優先する科学に基づく戦略で酪農家を力づけ、長期的な回復力とセクターの成長を支援することに焦点を当てています。

IDF酪農家円卓会議などの取り組みを通じて、農家が経験を共有し、革新的なビジネスモデルを探求し、酪農乳業界への新規参加者を鼓舞する場を創出しています。子牛の福祉と生産性を確保するため、子牛管理におけるベストプラクティスの重要性を強調しています。

熱ストレスなどの気候関連課題に対処するため、IDFは世界的な専門家チームを結集し、農家が牛の健康を守り乳生産を維持するための実践的な解決策を提供しています。IDF乳牛福祉フォーラムの立ち上げは、世界のベストプラクティスを共有し業界リーダー間の連携を促進することで、動物福祉の向上に向けた我々の取り組みをさらに強化するものです。

さらに、IDFアニマルヘルスレポートは、若齢牛の管理や抗菌薬耐性（AMR）といった重要な課題を強調し、健康成果の向上と責任ある農業慣行の促進への取り組みを裏付けています。

こうした取り組みを通じて、IDFは世界中で持続可能で高福祉な酪農を推進する先導的役割を果たし続けています。

### 酪農と酪農家支援

酪農家は収益性と、人間と動物の健康・福祉、環境保護への責任とのバランスを取らねばなりません。国際酪農連盟（IDF）は、様々な取り組みを通じて農場経営を支援しています。

IDFワールドデーリーサミットにおけるIDF酪農家円卓会議、IDF酪農家向けウェビナー、酪農家向け専用ポッドキャストなど、酪農家が懸念事項や関心事項について交流・議論できるプラットフォームを提供しています。さらに、酪農業専門家は機械搾乳などの技術を進化させており、関連する規格や試験手順を含め、国際標準化機構（ISO）と協力してISO/TC 23内での開発を進めています。



### 動物福祉に関する取り組み

IDF乳牛福祉フォーラムは、酪農乳業の保証の未来を形作るリーダーたちの基盤となる集まりとなりました。酪農乳業界のステークホルダーが、動物福祉における課題と機会について率直な見解を共有できる安全な場を提供しています。議論からは監査疲労やコンプライアンスコスト上昇といった共通課題が浮き彫りになると同時に、福祉プログラムへの持続可能性の統合や新技術の活用といった前進の道筋も示されています。本フォーラムは信頼関係を育み、各国・企業が相互に学び合うことを促進しています。福祉を責任ある調達と長期的なレジリエンスの一環と捉えています。

### 熱ストレス緩和

乳牛の熱ストレスは、世界の乳生産に重大な経済的影響を与える懸念事項として拡大しています。気候変動と高産出乳牛の遺伝的選抜が進む中、この問題は世界中の酪農場に影響を及ぼしています。IDFは、冷却方法、遺伝的選抜、飼料調整を含む緩和戦略に関する最新知見を『[IDF Bulletin No.534/2025 : 乳牛の熱ストレス管理](#)』にまとめました。効果的な熱ストレス管理は酪農場の収益性を向上させ、酪農の環境負荷を低減します。冷却システムへの投資は、乳量・牛の健康・繁殖能力の大幅な改善につながり、持続可能性を高めながらカーボンフットプリントを最小化します。

**IDFは、世界中で持続可能で高福祉な酪農を推進する先導的役割を果たし続けています。**



## 子牛のケア

子牛の適切なケアは極めて重要です。健康な子牛は、より健康で生産性の高い乳牛へと成長するからです。酪農業界は、動物の健康と福祉を高い水準で確保するため、最善の実践手法の導入に取り組んでいます。適切にケアされた若い乳用動物は病気への抵抗力が高く、抗生物質の使用を減らせます。IDFは世界的に優れた動物福祉慣行の実施を推進し、主要な基準を参照しています。業界を支援するため、IDFはペア飼育、母牛と子牛の接触、哺乳方法など、若い乳用動物の福祉に関する健康推奨事項を策定しました。離乳に関する今後のファクトシートがこの取り組みを補完します。

1. [IDFファクトシート第24号/2023：出生から離乳までの子牛管理：子牛のペア飼育](#)
2. [IDFファクトシート第38号/2024：出生から離乳までの子牛管理：母牛と子牛の接触による子牛の育成](#)
3. [IDFファクトシート第39号/2024：生後から離乳までの子牛管理：新生子牛から離乳までのミルク給餌](#)





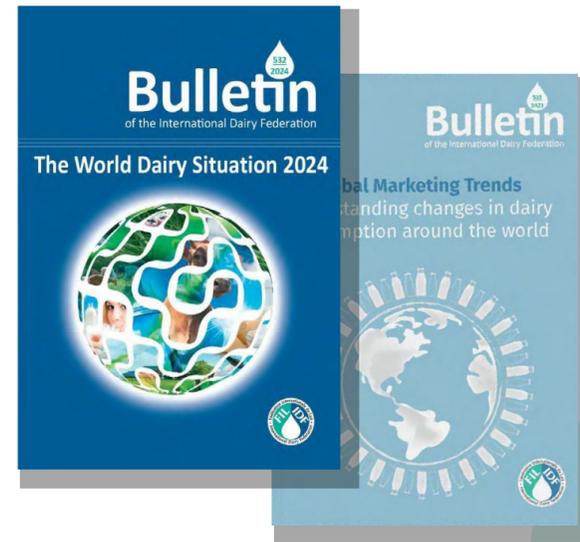
酪農乳業界がサプライチェーン全体の社会経済的持続可能性を達成するための知識を提供する。

これらの取り組みは、IDFが酪農乳業界における女性支援に継続的に取り組んでいる姿勢を反映しています。IDFは「酪農乳業における女性特別作業部会」を通じて、女性が活躍するために必要な手段、機会、評価を得られる、より包括的で公平な業界の構築を目指しています。

IDFは、世界の酪農乳業バリューチェーン全体における社会経済的持続可能性の推進において極めて重要な役割を果たしています。ベストプラクティスの促進、知識の共有、協働の促進を通じて、IDFは世界中の酪農乳業コミュニティの長期的な繁栄と回復力を支援しています。新型コロナパンデミックの最近の影響と継続する地政学的・経済的課題は、持続可能で適応力のある酪農乳業システムの構築の必要性を浮き彫りにしています。

国際酪農連盟（IDF）は、戦略的なデータ収集、市場分析、政策ガイダンスを通じて、経済的持続可能性と社会的責任を果たす酪農を支援し続けています。この取り組みの基盤となるのが『世界の酪農状況報告書』の発行です。

IDF世界の酪農状況報告書は1989年より毎年発行され、世界の酪農サプライチェーンに関わる者にとって不可欠なツールとなっている。この基幹刊行物は、50の主要酪農生産国からの情報を基に、世界の酪農生



**IDFは、世界の酪農乳業バリューチェーン全体における社会経済的持続可能性の推進において極めて重要な役割を果たしています。**

産、加工、貿易、価格、消費に関するデータと分析を提供します。2024年版は、フランスの酪農乳業界に焦点を当てた詳細な分析が特徴であり、最新データ、FAOおよびOECDによる長期市場分析、詳細な表やグラフへのデジタルアクセスを提供し、酪農乳業界全体の専門家を支援しています。さらに、年次技術ウェビナーを開催し、報告書に含まれる包括的な情報と主要なハイライトを紹介しています。

世界の酪農状況報告書を補完する形で、[第5回IDFグローバルマーケティング動向（GMT）報告書](#)が2025年に発行されました。IDFのマーケティング常設委員会および酪農政策・経済常設委員会が作成した本報告書は、2018年から2023年にかけて17カ国における乳製品の消費パターンを包括的に分析しました。本報告書は、新型コロナパンデミック、政治的不安定、気候変動といった主要な世界的課題が消費者の嗜好や市場動向に与えた影響に焦点を当てました。本報告書は、酪農乳業関係者向けにベンチマークデータと実用的な市場情報を提供します。主要な調査結果を共有するため、IDFは技術ウェビナーを開催し、各国固有の洞察、持続可能性に関する懸念、そして世界の乳製品需要に関する将来展望を特集しました。

総合すると、これらの出版物は、世界の酪農乳業界における需給に関する重要な知見を提供し、酪農乳業関係者にとって貴重な経済データを提供しています。IDF加盟団体から提供されたこれらの文書に含まれるデータの確固たる信頼性は、IDFネットワーク内に存在する強さと専門性を裏付けています。

IDFは、酪農乳業界における公平な機会と長期的な経済的持続可能性を確保するために必要なツールと知見を関係者に提供し、戦略的ガイダンスを継続的に提供してきました。定期的な調査を実施することで、IDFは世界の生乳生産量の半分以上を占め、さらに大きな割合で世界の乳製品貿易を担う国々から、経済動向、成果、状況、発展に関する知見を収集しています。最新の調査結果に基づく[ファクトシート](#)が発行され、2024年暦年における19カ国を対象としています。さらに、IDF技術ウェビナーでは主要専門家による詳細な分析が行われ、投入コストの変動性や、カーボンフットプリント削減のための利用可能なツール・業界イニシアチブ・政府政策といった重要課題が取り上げられました。



IDFは効率的で回復力があり、影響力のある科学に基づく組織である。

定期刊行物に加え、乳業施設登録や小売行動規範などのプロジェクトを通じて、IDFは酪農分野における社会・経済・環境の持続可能性への取り組みを推進しています。

戦略的作業計画の一環として、IDFが効率的で回復力があり、影響力のある科学に基づく組織となることが戦略目標の一つです。これらの目標達成に向け複数の施策が特定され、過去数ヶ月間の取り組みの大半は以下の点に注力された：

1.IDF作業計画の効果的かつタイムリーな遂行

1.1 IDFの手順に従い、業務の優先順位付けと進捗を確保する

他の組織と同様に、IDFは重要性和緊急性に基づき業務の優先順位を決定し、効果的な資源配分と焦点を絞ったコミュニケーションを確保しなければなりません。

IDFの作業項目はすべて、以下の4つの優先度レベルに分類されます：

- > 緊急
- > 重要かつ緊急
- > 重要または緊急
- > ボーナス

2025年におけるIDFの優先プロジェクトには以下が含まれます：

- > IDF汚染物質知識プラットフォームを通じた洗剤・消毒剤に関するガイドランスの開発
- > コーデックス食品衛生部会（CCFH）の水の使用及び再利用に関するガイドラインへの貢献、並びにIDF補完ガイドラインの開発
- > コーデックス酪農用語の使用に関する一般規格（GSUDT）の周知を含む酪農用語の保護に関する提言活動
- > 各国の食品ベースの食事ガイドラインおよび世界的な食事推奨事項における乳製品の役割に関する動向を特定・文書化し、対処する

これらのプロジェクトの進捗状況に関する詳細は、前ページに記載されています。

2022年 IDF常設委員会一覧

- SCAHW: 家畜の健康と福祉常設委員会
- SCAMAC: 食品添加物・汚染物質分析法常設委員会
- SCAMC: 成分分析法常設委員会
- SCAMDM: 酪農微生物分析法常設委員会
- SCAMPAI: 加工助剤・指標分析法常設委員会
- SCDPE: 酪農政策・経済常設委員会
- SCDST: 乳業科学・技術常設委員会
- SCENV: 環境常設委員会
- SCFA: 食品添加物常設委員会
- SCFM: 農場管理常設委員会
- SCHMM: 微生物分析法ハーモニゼーション常設委員会
- SCM: マーケティング常設委員会
- SCMH: 微生物学的衛生常設委員会
- SCNH: 栄養健康常設委員会
- SCRCC: 残留物質・化学汚染物質常設委員会
- SCSIL: 規格・表示常設委員会
- SCSA: 統計・自動化常設委員会

2025年IDF常設委員会一覧

- SCAHW: 家畜の健康と福祉常設委員会
- SCAMAC: 食品添加物・汚染物質分析法常設委員会
- SCAMC: 成分分析法常設委員会
- SCMDM: 酪農微生物学的手法常設委員会
- SCDPE: 酪農政策・経済常設委員会
- SCDSPT: 乳業科学・加工技術常設委員会
- SCENV: 環境常設委員会
- SCFA: 食品添加物常設委員会
- SCFM: 農場管理常設委員会
- SCM: マーケティング常設委員会
- SCFH: 食品衛生常設委員会
- SCNH: 栄養健康常設委員会
- SCRCC: 残留物質・化学汚染物質常設委員会
- SCSIL: 規格・表示常設委員会
- SCLSQA: 試験室統計・品質保証常設委員会

# IDF戦略目標

## SG 9 (続き)

### 1.2 すべてのIDF作業部会とIDFの作業慣行を見直す

業務遂行を確保するための対策として、手続きの見直しと、その明確化および専門家への周知徹底が挙げられました。

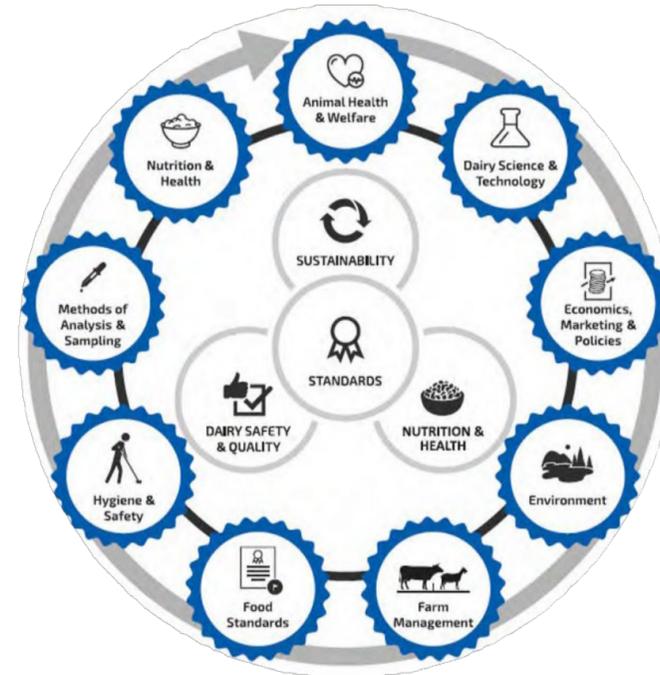
この目的のため、IDF定款及び細則の改正に続き、IDF作業部会への指針も2024年に改正・完成されました。

コーデックスへのIDF意見提出手続きは、2025年に既に改訂済みです。

### 1.3 IDFの作業構造の妥当性を確保するため、SCおよびTFの現行の任務と作業項目を分析する

すべてのIDF常設委員会および特別作業部会に対し、目的の見直しと最適な作業方法の検討が要請されています。

見直しの結果、全ての目標は確認または修正されました。組織変更では、常設委員会の数を17から15に削減し、2つの委員会を他の委員会と統合することが含まれます。さらに3つの委員会は、その範囲をより適切に反映するものであるよう名称を変更しました。



**非営利組織として、IDFは1200名の専門家ボランティアからなるグローバルネットワークを活用し、業界のニーズを特定し、影響力のある成果に貢献しています。**

これは、会員からの懸念事項の進展に伴い、必要に応じて継続されるダイナミックな取り組みです。

### 2. 適切なタイミングで適切な専門性を確保する

非営利組織として、IDFは1200名の専門家ボランティアからなるグローバルネットワークを活用し、業界のニーズを特定し、影響力のある成果に貢献しています。必要な時に適切な専門知識を確保するため以下の取り組みを実施しました：

- > 作業部会における専門知識のマッピングと特定されたギャップ、IDFクラウド（新規会員限定オンラインエリア）を通じて入手可能な情報
- > IDFの活動への貢献メリットに関するステークホルダーとのコミュニケーション強化（採用ファクトシートへのリンク）
- > ボランティア専門家への表彰を複数（例：若手研究者賞）実施し、認知度を高める

### 3. 刺激的なつながりを生み出し、関与とエンパワメントをもたらすコミュニケーションを実現する

2025年、IDFはコミュニケーション戦略を新たな高みへと引き上げ、会員やステークホルダーが単に情報を得るだけでなく、刺激を受け、つながりを持てるようにしました。IDFクラウド、LinkedIn、X、Bluesky、そして当社ウェブサイトを通じた活気あるリアルタイムの更新により、酪農乳業の革新、食品安全、持続可能性、栄養に関する最新情報を、世界中のコミュニティがどこにいても直接お届けしました。

IDFデーリーイノベーション賞、世界食品安全デー、グローバルマーケティングトレンド報告書を集めた当連盟のダイナミックなキャンペーンは、業界基準を大幅に上回るエンゲージメント率を達成し、活発な議論を喚起しました。数百名がオンラインで参加し、世界中の酪農乳業の声を共有・コメント・拡散しました。

私たちはそこで止まりませんでした。カスタマイズされた広報資料の提供、多言語による専門家募集活動の展開、戦略的な報道機関との提携構築を通じて全てのメンバーが認められ、声を届けられ、参加する力を与えられるよう確実な手配を行いました。こうした取り組みは、透明性、迅速な対応、関連性に対する揺るぎない姿勢を体現しており、あらゆるメッセージが単に届くだけでなく、真に共感を呼ぶことを保証しています。

# SG 9.5



### 関与とエンパワーメントをもたらすコミュニケーションを実現する。

#### 国際ミルクプロモーション（IMP）グループ： 酪農乳業のつながりにインスピレーションを 与えて60年

1965年に設立されたIMPは、IDFマーケティング常設委員会（SCM）のアクションチームです。カナダ、米国、チリ、デンマーク、ノルウェー、フランス、南アフリカ、英国、スイス、オーストラリア、ニュージーランドを含む20以上の加盟国を有するIMPグループは、汎用乳製品マーケティングにおけるグローバルな協力の礎となっています。



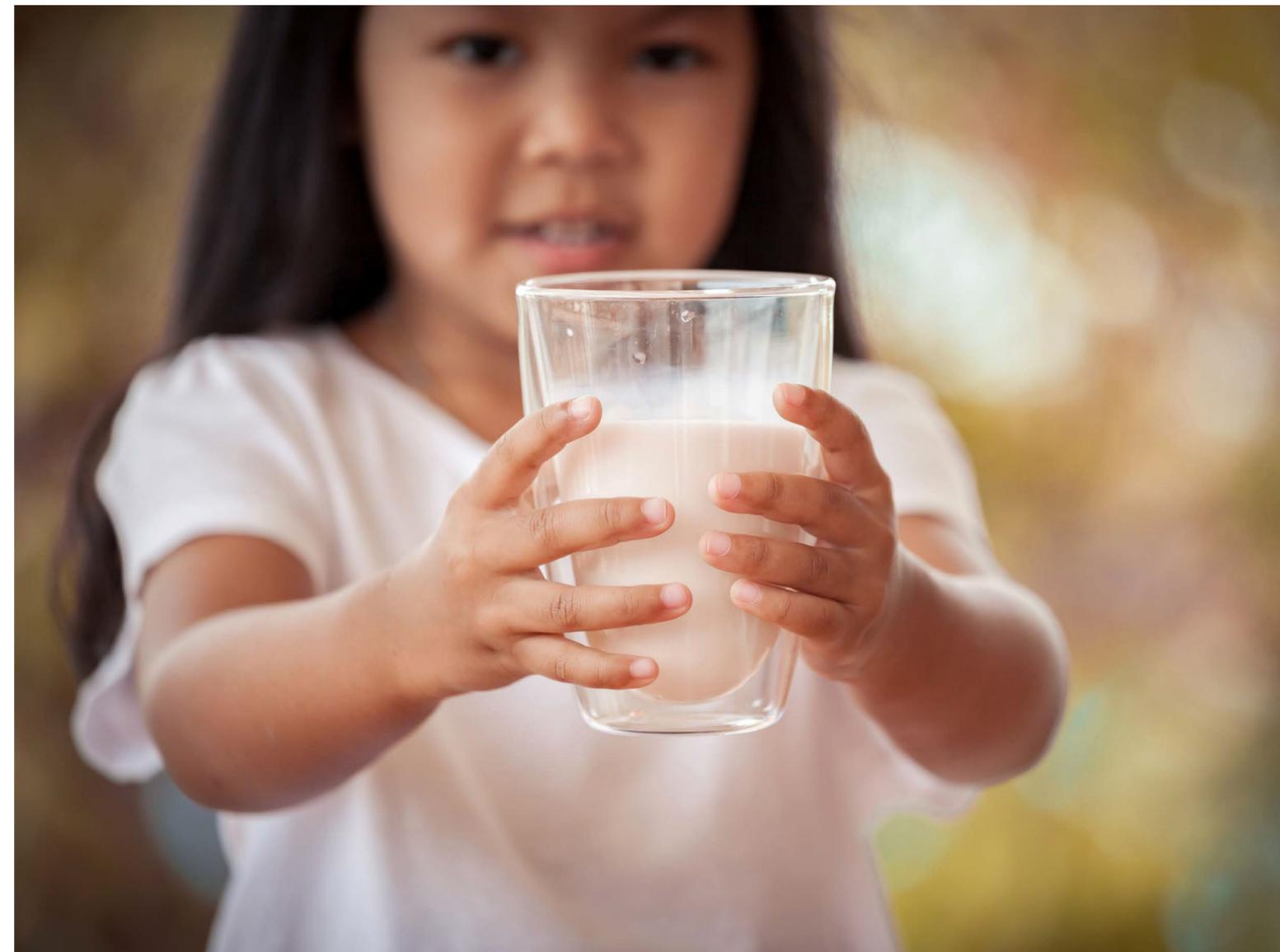
2025年、IMPは設立60周年を迎え、乳製品の栄養的価値と健康的なイメージを推進してきた60年にわたる卓越した実績を刻みます。この節目は、IDFウェブサイトでの露出促進、記念ロゴ、そして世界的なマーケティング活動を集めたリール動画を通じて記念されます。

IMPグループの活動は、国境を越えた知識の交換を促進し、新たな消費者トレンドを特定し、乳製品プロモーションにおけるベストプラクティスを共有します。その年間活動には以下が含まれます：

- > ケーススタディ、専門家パネル、汎用マーケティングキャンペーンの優秀性を称えるIMPイヴ・ブートナ賞の審査を特徴とする年次中間会議。
- > IDFワールドデーリーサミットにおけるビジネス会議。
- > グローバル・デーリー・プラットフォームとの戦略的連携、および他のIDF常設委員会（栄養、持続可能性、学校牛乳プログラム）との共同イニシアチブ。

最近の議論では、乳業コミュニケーションにおけるAI活用、ターゲット層としてのアルファ世代、食品マーケティングにおけるグリーンウォッシングといった革新的なテーマが検討され、IMPが業界の課題に先んじて取り組む姿勢を反映している。

その永続的な遺産と先見性のある活動計画を通じてIMPグループは、乳業のグローバルな発言力を高めるためのツール、洞察、インスピレーションをIDFメンバーに提供し続けています。





# 会員と主な動向

IDFの加盟国は現在**40カ国**に拡大し、アルゼンチン、オーストラリア、中国、セネガル、スペイン、南アフリカでは新たに国内委員会事務局長が任命されました。スペインとアルゼンチンが準会員として加わったことで、組織のグローバルな展開と多様性がさらに強化されました。

各国内委員会はIDFの基盤であり、そのリーダーシップ、専門知識、揺るぎない献身を通じて、私たちの使命を支え、酪農乳業分野における世界的な協力を可能にしています。

## IDF中間年次会議

**2025年6月10日～13日、ベルギー・ブリュッセル**

IDFはブリュッセルで年次中間会議を開催し、理事会、国内委員会（NC）、科学・計画調整委員会（SPCC）、およびスタッフから約50名の参加者が集まりました。複数日にわたる本イベントでは、理事会および総会、戦略計画ワークショップ、国内委員会フォーラムが開催されました。特に注目すべきは、いくつかの国内委員会（NC）がオンラインで議論に参加し、地理的な距離にもかかわらず幅広い国際的な参加と意見交換が実現した点です。中心的な焦点は「IDF戦略2026-2030」の策定でした。

## IDFデー

**スイス・リーベフェルダー乳業デー、2024年11月19日、スイス・ベルン**

リーベフェルダー乳業デー2024には、生産者、加工業者、コンサルタント、研究者など、スイス乳業分野から50名が参加しました。本イベントでは、アグロスコープ及びベルン応用科学大学による研究発表に加え、パリで開催されたIDFワールドデーサミットからの知見が紹介されました。主要テーマは、メタン削減、乳牛のタンパク質効率、H5N1鳥インフルエンザ、発酵乳製品、革新的なチーズ熟成技術などでした。世界の酪農乳業分野におけるスイスの関与は、パリサミットに25名の代表団が参加したことで強調されました。リッカルド・コクツィ氏とマリア・フリッツァリン氏は、チーズ用細菌と環境フットプリントに関する研究でパベル・イエレン若手科学者賞を受賞しました。業界リーダーらは「持続可能性に関するデーリー・パリ宣言」に署名し、健康的な栄養を第4の柱として強調しました。研究では、乳糖不耐症の解決策、乳脂肪の認知機能への利点、牧草飼育チーズにおけるビタミンKの生物学的利用能が取り上げられました。

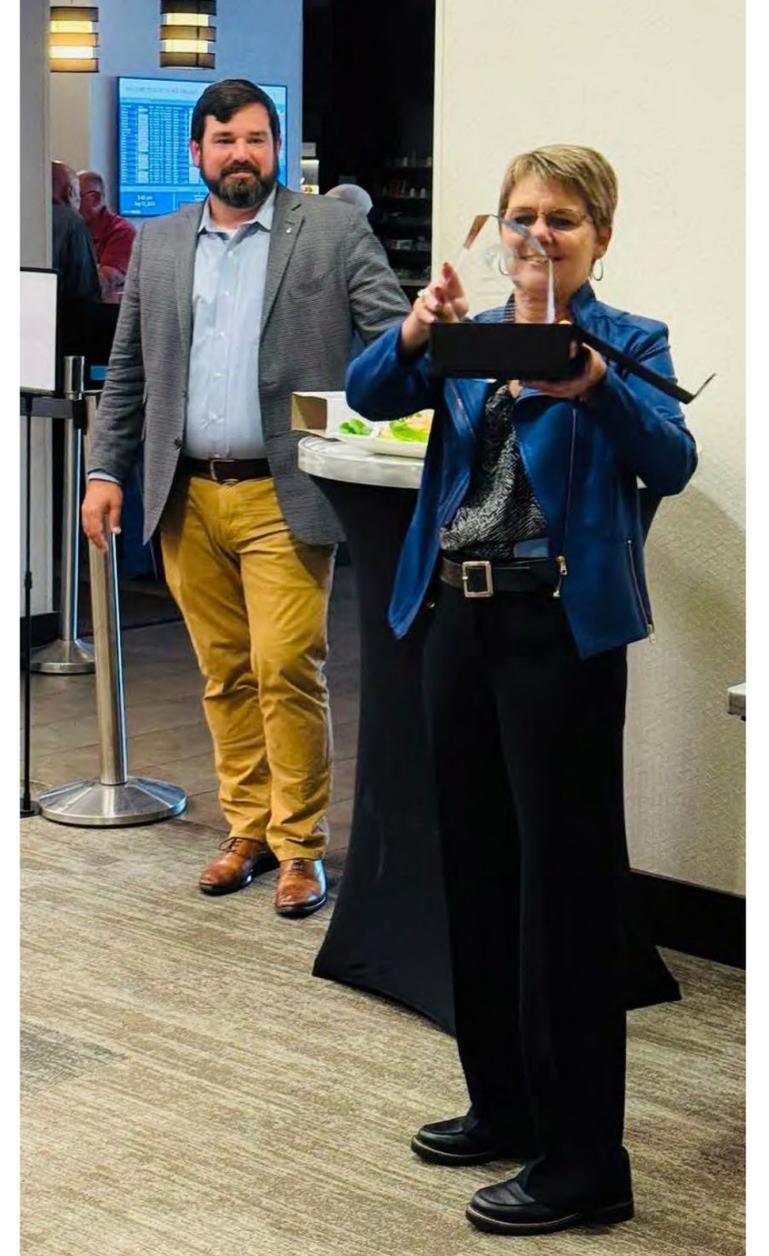
## カナダの酪農乳業持続可能性に関するフォーラム

**2025年5月2日、カナダ・オタワ**

国際酪農連盟（IDF）カナダ国内委員会は、デーリー・パリ宣言を踏まえ、酪農乳業の持続可能性に関するフォーラムを開催しました。本イベントは、2030年目標と2050年までのカーボンニュートラル達成を目指し、カナダにおけるパリ宣言の実施に焦点を当てました。関係者らは世界的な取り組みを共有し、カナダのパートナーによる実施事例を紹介しました。業界特有の課題を特定するとともに、温室効果ガス排出削減に向けた今後の具体策を議論しました。セッションの締めくくりでは、カナダの酪農バリューチェーン内における年次報告と継続的対話の重要性が強調されました。

**2025年9月1日、ノルウェー・オスロ**

IDFノルウェー支部はハイブリッド形式の年次IDFデーを開催し、国内委員会の活動状況、国際協力、サンティアゴでの総会に向けた準備状況について最新情報を提供しました。本イベントでは戦略的議論が行われ、SPCCマネージャーのオーレリー・デュボワが主導するコーデックス委員会セッションが実施されました。



## 会員と主な動向（続き）

### 2025年9月17日～18日、シカゴ、米国

シカゴでのIDFデーでは、主要な酪農乳業リーダーや組織との戦略的会合が開催されました。ローレンス・ライケン事務総長は、グローバルな優先課題、基準設定、ワールドデーリーサミットの準備に関する議論を主導しました。訪問では現地視察が行われ、退任する米国NC事務局長デブラ・ウェンドルフ＝ボイケ氏が表彰され、セミナー、農場視察、および米国IDF加盟組織の大半の代表者との会員会議が含まれました。議題には、IDF戦略計画、持続可能性に関するデーリー・パリ宣言、チリでの今後のビジネス会議、米国IDFの国内活動と連動したIDF作業計画の進捗状況などが含まれました。



## 会員と主な動向（続き）

### 2025年3月25日、南アフリカ・ケープタウン

南アフリカ国内委員会は年次総会および執行委員会を開催し、乳生産者団体、乳加工業者団体、乳製品基準庁のメンバーが一堂に会しました。参加者は経験を共有し、IDF作業計画の進捗について議論しました。

### 全国牛乳の日、2024年11月26日、インド・ニューデリー

インドは「全国牛乳の日」を祝い、ヴァルゲーゼ・クリエン博士と白の革命の功績を称えた。この祝典は、インド酪農協同組合活動の中心地であるアーナンドで2025年に開催される主要イベントの幕開けとなりました。3月29日から4月4日にかけて、インド国内委員会はグジャラート州アーナンドでICAR年次会議およびISO/IDF分析ウィークを主催し、家畜記録管理と乳・乳製品分析に焦点を当てました。4月1日にはインド国内委員会が会議を開催し、ミーネシュ・シャー博士はルワンダ・キガリで開催されたIDFアフリカ地域デリーサミットにおける世界牛乳デー記念行事に参加しました。8月13日にはニューデリーで別のインド国内委員会会議が開催されました。

**IDFは、新たなメンバーの皆様を世界的な酪農乳業コミュニティへ温かくお迎えします。皆様の専門知識、情熱、そして協力は、私たちが共に酪農乳業のより持続可能で包括的かつ革新的な未来を形作る上で不可欠です。**

### 中国乳業協会第31回年次大会・2025中国乳業技術博覧会

2025年5月23日～25日、中国・南京

第31回年次大会および2025中国乳業技術博覧会が南京国際博覧センターで開催され、協会創立30周年を記念しました。本博覧会には274社が参加し、牧場建設・乳製品加工・知能化設備など7分野で36,000平方メートルを展示しました。会議では「中国乳業白書」を発表し、2024年度トップ10科学技術革新を表彰され、母乳由来オリゴ糖合成などの技術が選出されました。10のフォーラムでは



最先端のトピックが議論され、「四つの新しい」記者会見では46の革新的な成果が紹介されました。酪農乳業カーニバルでは試食体験や親子向けアクティビティで消費者を魅了しました。

## IDF地域イベント

### IDF地域酪農会議 アフリカ 2025年5月29日～6月1日、ルワンダ・キガリ

IDFアフリカ地域酪農会議は、キガリにおいて4日間にわたり集中的な対話の場を設け、アフリカ大陸内外から400名以上の参加者を集めました。本会議は、アフリカの酪農乳業界が直面する特有の課題に取り組むための活発なフォーラムを提供し、協力と革新を促進しました。戦略的議論は、気候変動に配慮した強靱な酪農生産、動物の健康と福祉、ならびに製品品質と安全性の向上に向けた加工・包装技術革新に焦点を当てました。会議では、特に子どもたちの栄養における乳製品の役割が強調され、国家の食事ガイドラインへの乳製品統合が提唱されました。酪農乳業従事者の能力強化に向けた社会経済開発と資金調達について議論が行われ、同時にバリューチェーン

における女性の貢献を認識するジェンダー包摂的政策の必要性が訴えられました。「世界牛乳の日」には、参加者が地元の児童と牛乳を分かち合うことで祝賀し、栄養と地域社会への関与に対する業界の取り組みを象徴しました。次回会議はジンバブエのビクトリアフォールズで開催され、地域協力と革新の勢いを継続します。

### IDF地域連携会議、2025年3月13日～14日、ケニア・ナイロビ

IDFはケニア大統領夫人が主導する「食糧を供給し、飢餓を終わらせる」イニシアチブに参加し、1,000万人以上の児童を対象とした全国学校牛乳プログラムの推進を提唱しました。ローレンス・ライケン事務局長はIDFの世界調査結果を発表し、乳製品が児童の栄養と教育において果たす役割を強調するとともに、学校牛乳知識ハブを通じた政策支援を表明しました。

2025年10月20日～23日、チリのサンティアゴにて開催されるIDFワールドデリーサミットでこの年は締めくくられます。南米初開催となる本サミットは、地域の特性を強調しグローバルなパートナーシップを育むというIDFの伝統を引き継ぐものです。

# IDF REGIONAL DAIRY CONFERENCE AFRICA

KIGALI-RWANDA



# 出版物

## ファクトシート



[> IDFファクトシート No.42/2024](#)  
 エグゼクティブ・サマリー  
 IDFカントリーアップデート  
 2024



[> IDFファクトシート No.45/2025](#)  
 酪農チェーンにおける残留塩素と  
 次亜塩素酸塩の管理



[> IDFファクトシート No.44/2025](#)  
 エグゼクティブ・サマリー  
 IDFカントリーアップデート  
 2025



[> IDFファクトシート No.43/2025](#)  
 タンパク質の移行から食料システ  
 ムの移行へ：持続可能な食料シス  
 テムにおける乳製品の包括的な役  
 割



[> IDFファクトシート No.46/2025](#)  
 カンピロバクター属菌と乳製品

## 意見書

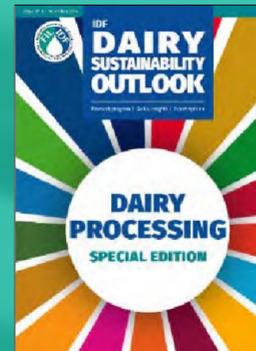


[> IDF意見書：酪農用語の使用に  
 関するコーデックス一般規格の  
 細胞農業製品および原料への適  
 用について](#)

## 報告書



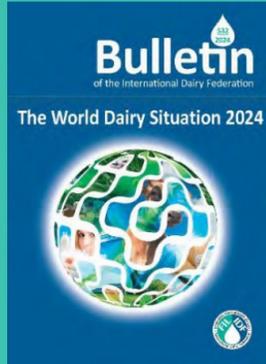
[> IDF酪農乳業における女性に関  
 する報告書：第2号（2024）](#)



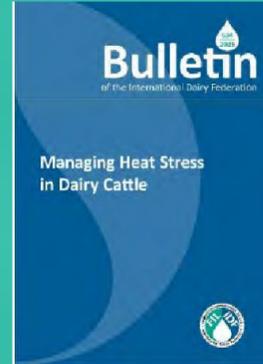
[> IDF酪農乳業持続可能性見通  
 し：第8号- 乳製品加工](#)

## 出版物（続き）

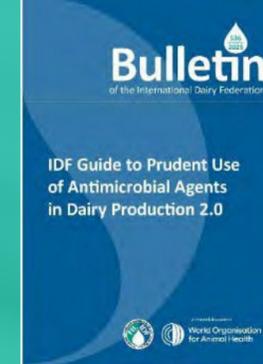
### ブリテン



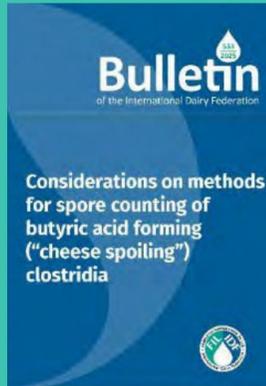
> [IDFブリテン No.532/2024](#)  
世界の酪農状況報告書2024



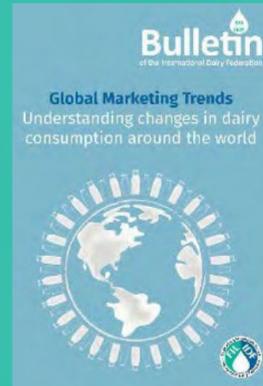
> [IDFブリテン No.534/2025](#)  
乳牛の暑熱ストレス管理



> [IDFブリテン No.536/2025](#)  
酪農生産における抗菌剤の慎重な使用に関するガイド 2.0



> [IDFブリテン No.533/2025](#)  
酪酸形成（チーズの腐敗）クロストリジウム属細菌の孢子計数方法に関する考察



> [IDFブリテン No.535/2025](#)  
グローバルマーケティングトレンド報告書

### 分析法規格



> [ISO 29981 | IDF 220の改訂](#)  
乳製品—ビフィズス菌の計数—コロニー計数法

# 受賞および表彰

## IDF賞

権威あるIDF賞は、酪農乳業分野において顕著な世界的貢献を果たした個人を称えるものです。2024年、本賞はジェフリー・（ジェフ）・スミザーズ教授に授与されました。同教授は、乳業科学と革新を大きく前進させた学際的な研究開発および商業化プログラムにおけるリーダーシップが評価されました。



## パベル・イエレン教授若手科学者賞

本賞は酪農科学技術分野における新進研究者の卓越性を称えるものです。2025年度受賞者：

- > 第1位：チェン・チャオ  
（アルバータ大学、カナダ）  
「持続可能な酪農生産のための発酵培養菌の最適化」
- > 第2位：メンシャオ・ヤン  
（リデット研究所、マッセイ大学、フォンテラ研究開発センター、ニュージーランド）  
「乳タンパク質と酵素の相互作用：胃消化のメカニズムに関する知見と乳製品加工への示唆」
- > 第3位：マルコス・マナゴス  
（スウェーデン農業科学大学）  
「最良の飼料管理下における乳牛の温室効果ガス排出量と食品システムへの寄与」



## IDF優秀賞

IDFの事業計画に卓越した貢献を果たしたボランティアに授与される賞であり、SWIFT原則（スピード、世界的な認知度、影響力、焦点、透明性）に沿った活動が対象となります。

### 2024年度受賞者：

チョレ・ファロック博士（フランス）



## 常設委員会リーダー表彰

IDF常設委員会における模範的なリーダーシップを称えます。

### 2024年受賞者：

フランソワ・ブルディション（フランス）  
- IDF微生物学的衛生常設委員会委員長



## IMP イヴ・ブートナ賞

世界の乳製品マーケティングにおける卓越性を称えるイヴ・ブートナ国際乳製品プロモーション賞は、世界で最も革新的で影響力のある汎用広告キャンペーンを表彰します。

### 2024年受賞者：

カナダ酪農生産者協会

## 受賞および表彰（続き）

### IDFデーリーイノベーション賞 2024受賞者

第3回IDFデーリーイノベーション賞の受賞者が、パリで開催されたIDFワールド・デーリー・サミット2024で発表されました。特別全体会議では、今年の受賞者の功績を紹介する映像が上映され、受賞者らは直接表彰を受け、酪農乳業の専門家たちと意見を交わしました。基調講演者として登壇したテトラパック米国法人の加工液体食品ソリューション部門副社長、ヴィンチェンツォ・ベネヴェート氏は、その演説で参加者を奮い立たせました。

国際酪農連盟がテトラパックの支援を得て2022年に創設した本賞は、持続可能性と社会的貢献に重点を置き、世界の酪農乳業界における革新的な取り組みを称えるものです。2024年のコンテストには25カ国から153件の応募があり、牛乳・乳製品生産の全段階における革新と持続可能性への業界の取り組みが示されました。

### 受賞者

#### 持続可能な農業実践におけるイノベーション - 環境部門

ティーガスク、ボード・ビア、ICBF—AgNav（アイルランド）。AgNavは、アイルランドの酪農家に正確かつ検証可能なデータを提供し、排出量削減と水質向上を支援する農場での意思決定を支える、革新的な新たな持続可能性プラットフォームです。その包括的な目的は、農家が生産性を向上させ経済的持続可能性を確保すると同時に、新たな環境持続可能性基準を設定することを支援することです。

#### 持続可能な農業実践におけるイノベーション - アニマルケア

アムール乳業（インド）。アムール乳業は、抗菌薬耐性対策として、乳牛へのホメオパシー療法導入の先駆者となった。26種類の一般的な疾病に対する革新的な治療法により、68,000頭以上の動物が治療に成功しました。抗生物質の使用量を削減し、持続可能な酪農を推進しています。2024年5月までにアムールは30ml瓶のホメオパシー医薬品を33万本製造し、18万本を配布しました。この包括的アプローチは動物と公衆の健康を向上させます。

#### 持続可能な農業実践におけるイノベーション - 社会経済

インド酪農開発委員会、サンダルバン協同組合牛乳・畜産生産者組合（インド）。この組合は、サンダルバンス地域で最初の女性だけの有機酪農協同組合であり、4,500人以上の周縁化された女性農家に力を与えています。有機酪農生産と多品目農業を統合することで、持続可能な生計手段を提供し、女性の社会的地位を高め、社会経済的変革を促進し、この地域の繁栄と持続可能な開発を確保しています。

#### 持続可能な加工におけるイノベーション

アシャ・マヒラ・ミルク・プロデューサー・カンパニー・リミテッド（インド）。太陽光発電式インスタントミルク冷却装置—小規模酪農家が点在する地方地域における画期的なオフグリッド持続可能イニシアチブ。

## 受賞および表彰（続き）

### 持続可能な包装におけるイノベーション

ダノン - アクティメル、プラスチック製スリーブを廃止（フランス）。ダノンは循環型・低炭素包装に向けて強力な取り組みを推進。アクティメルブランドはこの包装変革を体現し、2023年には象徴的なボトルのプラスチックスリーブを廃止。これによりEU全域で99%のリサイクル達成とプラスチック消費削減を実現！

### 新製品開発におけるイノベーション - 人間の栄養

内蒙古乳業技術研究所 - サティン活性ラクトフェリン有機牛乳（中国）。技術革新により開発された本有機牛乳は、常温保存乳において90%という高い活性ラクトフェリン保持率を達成。活性ラクトフェリン含有量を8倍に高め、消費者の免疫力維持をサポートします。

### 新製品開発における技術イノベーション- 設備機器

ユニセンサー—Auroxシステム（ベルギー）。コーヒーメーカーの簡便さを、牛乳の抗生物質スクリーニングに応用することを想像してください。Auroxシステムは、ロボット技術とラテラルフロー検査技術を前例のないほどシンプルな設計で融合し、酪農家やトラック運転手の日常業務を支援します。その故障のない構造は業界をリードする信頼性を提供し、牛乳輸送・貯蔵システムへのシームレスな統合が可能です。

### 気候行動におけるイノベーション

STジェネティクス—Ecofeed®（米国）。Ecofeed®—飼料効率に関する25,000件以上の子孫記録に基づき、メタン排出量を恒久的かつ累積的に削減する遺伝子技術。優れた飼料効率と低メタン排出特性を備えた個体を特定することで、生産者は収益性を高めつつ、持続可能な酪農産業と未来の農家・消費者世代のための世界を実現できます。

### 女性のエンパワーメントにおけるイノベーション

国際乳業食品協会（IDFA） - 酪農業界の女性ネットワーク（米国）。IDFAの酪農業界の女性ネットワークは、データに基づく報告とツールの提供、経営陣の関与、ネットワーキングの促進、専門能力とリーダーシップ開発を通じて、米国酪農業界における人材採用、定着率、ジェンダー平等の向上に取り組んでいます。IDFAはまた、酪農業界における女性の扱いを巡る調査結果と業界全体の提言をまとめた「2024年 酪農業界における女性の現状レポート」を公表しました。

### マーケティングとコミュニケーションにおけるイノベーション

Jミルク（日本）。国内約1000万人の子どものカルシウム不足に対処するため、Jミルクは乳業関係者、学校、栄養士と連携し、約20のプロジェクトを立ち上げ実施しました。このキャンペーンを知った保護者は、週末に子どもに牛乳を与える可能性が45%高まりました。このプロジェクトは明確にプラスの効果をもたらしました。

# 今後の イベント

## IDF国際シンポジウム：羊・山羊およびその他の非牛乳製品

2026年2月9日～11日  
インド・グジャラート州アーナンド  
(インド酪農開発委員会)

インドIDF国内委員会主催の本シンポジウムでは、研究者、学者、酪農専門家が一堂に会し、羊、山羊、その他非牛類（ラクダ、ロバ、ヤクを含む）の乳に関する最新研究と革新技术について議論します。本イベントでは、生計手段、飼育・管理技術、成分分析・加工技術、栄養学、特殊製品開発に関するセッションを実施します。技術視察とパネルディスカッションを通じて、さらなる知識交流と協力の機会を提供します。



## IDF/ISO分析ウィーク2026

2026年5月5日～7日  
スイス・ベルン

スイスIDF全国委員会主催の本年次イベントでは、乳製品検査室管理者、科学者、分析専門家が一堂に会し、牛乳・乳製品分析法の最新動向について交流・議論を行います。1週間のプログラムには、ビジネスミーティング、標準化と法規制・栄養・動物福祉への影響に関するシンポジウム、技術視察、展示会が含まれます。本イベントはハイブリッド形式で開催され、対面参加とオンライン参加の両方を可能とします。

> <https://www.idf-iso-analytical-week-2026.ch/>



## IDFアフリカ地域酪農乳業会議 2026

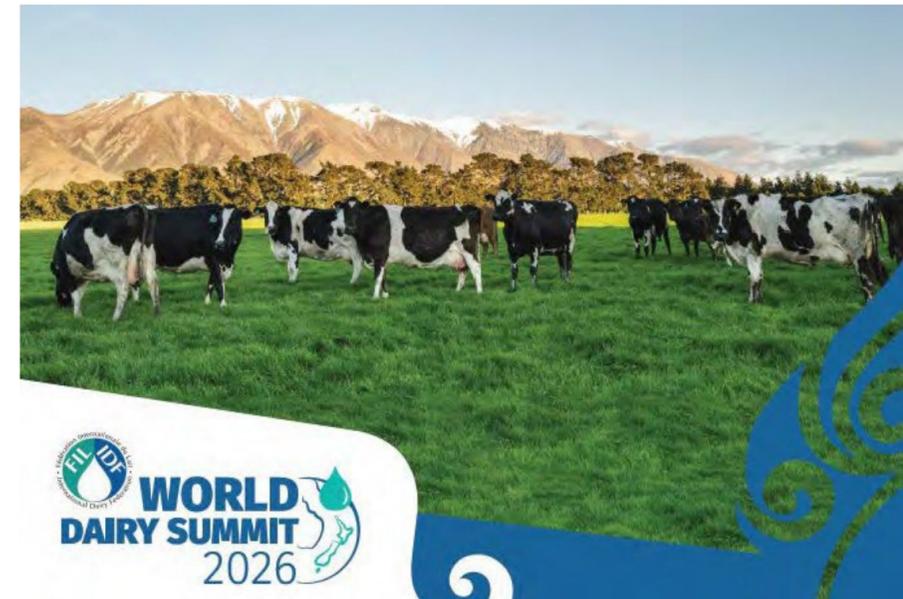
2026年3月31日～4月2日  
ジンバブエ・ビクトリアフォールズ

この地域会議は、アフリカ全域における気候変動に強く適応した酪農生産の進展を紹介することを目的としています。プログラムでは、安全性・品質、人間と動物の健康、農場経営、イノベーション、加工、持続可能性、および新たな地域課題といったトピックを取り上げます。本イベントは、酪農乳業専門家、生産者、加工業者、政策立案者間のパートナーシップ構築、知識共有、ネットワーキングを促進し、アフリカの酪農乳業界の将来のロードマップ策定に貢献します。

## IDF乳房炎および搾乳技術シンポジウム 2026

2026年3月11日～13日  
スウェーデン・ストックホルム

IDF乳房炎および搾乳技術シンポジウムでは、乳房炎予防、搾乳技術、機器試験に関する最新技術と研究について、国際的な専門家が一堂に会して議論します。本イベントでは、基調講演、科学セッション、ポスター発表、農場見学を実施し、動物の健康、乳質、持続可能な酪農実践に焦点を当てます。本会議には学術



界、産業界、および獣医学分野からの多様な参加者が集まることが見込まれています。

> [www.idfmilkingmastitis2026.net](http://www.idfmilkingmastitis2026.net)

## IDFワールドデーリーサミット2026

2026年11月15日～20日  
ニュージーランド・オークランド

IDFワールドデーリーサミット2026は、オークランドにて世界の酪農乳業リーダー、科学者、関係者を集め、「健全な人々、健全な地球、健全な経済」をテーマに議論を深めます。プログラムには全体会議、専門家パネル、技術シンポジウム、充実したポスターセッションが含まれ、牧畜システム、持続可能性、イノベーション、社会における酪農乳業の進化する役割に重点を置きます。気候変動対策、栄養、技術、経済的回復力における進展を強調し、多様性と参加者の関与を重視した一週間となる予定です。

> [www.idfwds2026.com](http://www.idfwds2026.com)

# 技術 ウェビナーシリーズ

ウェビナーは、IDFの事業計画を遂行し、酪農乳業分野のグローバルな専門知識の拠点としての役割を強化する上で重要な手段です。戦略的な計画を通じて、IDFはウェビナーが会員にとって極めて関連性の高い内容となるよう確保し、業界全体で有意義な関与を促進しています。

2024年技術ウェビナーシリーズは高い成果を上げ、影響力を拡大し続けました：

- > 16回のウェビナーを実施し、2023年より3回減少しました。
- > 2024年には登録者数が39%、参加者数が44%それぞれ減少しました。
- > 幅広い関連性：トピックは、酪農乳業システムの多様性が低い国を含むIDF加盟国全体で共感を呼び、包括的な知識共有を確保しました。
- > 戦略的整合性：ウェビナーのテーマは、IDF戦略目標2（SG2）を除く全ての戦略目標を網羅しました。ただし、当該戦略目標については2024年に、関連する非政府組織とその他の活動を通じて対応が図られました。

この年次シリーズは1月から12月まで開催され、専門家主導の対話を通じて乳業科学技術の発展に貢献するというIDFの取り組みを体現しています。

2024年10月から2025年10月にかけて、計16回のウェビナーが開催されました



2024年12月10日	欧州における食品ベースの食事ガイドラインの最新動向
2025年3月6日	<a href="#">より包括的な酪農乳業界に向けた無意識の偏見への取り組み</a>
2025年3月12日	<a href="#">学校給食プログラム：次世代を育む</a>
2025年3月26日	IDF酪農家円卓会議—移行計画—酪農家の後継者
2025年4月16日	GSUDTおよび細胞農業の文脈における酪農用語
2025年4月23日	<a href="#">パヴェル・イエレン教授若手研究者賞</a>
2025年4月28日	<a href="#">IDF &amp; IUFoST ウェビナー   食品加工：持続可能性と誤解</a>
2025年6月2日	<a href="#">LCA検証フレームワークの深掘り</a>
2025年6月4日	IDF酪農家円卓会議：持続可能性、酪農家視点のメタン排出、Bovaer®、LCA、ブリーディング
2025年6月4日	<a href="#">世界食品安全デー - 食品安全における乳製品加工の役割：その科学的根拠</a>
2025年6月20日	<a href="#">チリに焦点を当てた世界の酪農情勢</a>
2025年7月17日	<a href="#">IDFグローバルマーケティングトレンド2025</a>
2025年9月3日	IDF酪農家円卓会議—酪農における水の利用
2025年9月8日	<a href="#">持続可能な食料システムにおける酪農の役割</a>
2025年9月9日	IDF & EuFMD ウェビナー   酪農乳業界におけるバイオセキュリティ：口蹄疫の制御
2025年9月24日	<a href="#">世界学校牛乳の日を祝う：なぜ重要なのか</a>



# IDF理事会

## 1. ジル・フロマン氏

### IDF会長兼理事会議長

2024年10月に国際酪農連盟（IDF）会長に選出されたフロマン氏は、2020年に総会選出代表として理事会に加わりました。ラクタリス・カナダの政府・産業関係担当副社長を務め、過去6年間にわたりIDF酪農政策・経済常設委員会の委員長を歴任しました。

## 2. ジェイミー・ジョンカー博士

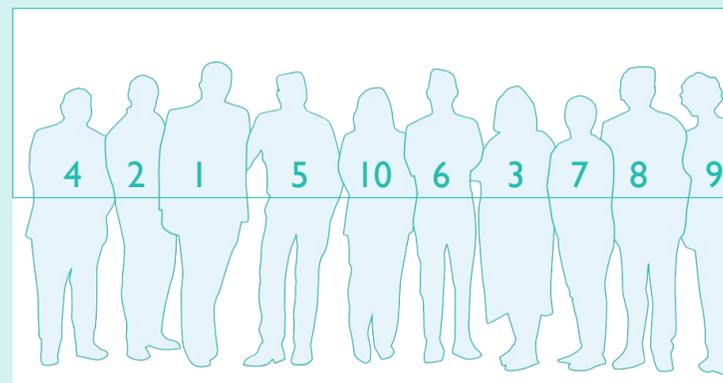
### 科学・計画調整委員会委員長

2020年にSPCC議長に選出されたジョンカー博士は、これまでにIDF農場管理常設委員会およびIDF動物飼料特別作業部会の委員長を務めました。現在、IDF家畜の健康と福祉常設委員会、残留物質・化学汚染物質常設委員会、環境常設委員会の委員を兼任しています。NMPF（全米乳製品生産者連盟）のサステナビリティ・科学担当副会長として、動物衛生、バイオテクノロジー、バイオセキュリティ、大気・水質、農場の持続可能性、技術サービスに関する課題を担当しています。

## 3. シャロン・ミッチェル氏

### 各国内事務局長会議議長、IDF 会計担当

2023年にIDF各国内事務局長会議議長および理事会代表に選出されたミッチェル氏は、2003年からIDFに関わっています。彼女は、ニュージーランドIDF委員会の国内事務局長およびフォンテラ社のグローバルセクタープログラムのプログラムリーダーを務めています。



## IDF理事会（続き）

### 4. ミーネシュ・シャー博士

#### IDF理事

インド酪農開発委員会会長兼最高経営責任者であるシャー博士は、2023年に当理事会に加わりました。酪農分野で38年以上の経験を持ち、小規模農家と女性のエンパワーメントを推進し、バリューチェーン全体で革新と持続可能性を牽引しています。

### 5. メル・ルブサー氏

#### IDF理事

ルブサー氏はフェア・ケープ・グループの共同創業者兼マネージング・ディレクターであり、エンジニアリングと酪農分野で35年以上の経験を有します。南アフリカ乳業加工業者機構の議長を務め、Milk SAの取締役を兼任しています。2012年にはケープタウンで開催された国際酪農連盟（IDF）ワールドデーリーサミットを主導しました。そのリーダーシップは業界全体の連携と科学的整合性の推進に貢献しています。

### 6. ローラン・ダミアン氏

#### IDF理事

ダミアン氏はCNIELの最高執行責任者であり、2008年よりIDFに貢献しています。IDFマーケティング常設委員会の委員長および副委員長を務め、IDF植物由来製品特別作業部会を率いた。また「グローバルマーケティングトレンド」報告書の発案者であり、複数のIDFワールドデーリーサミットで講演を行っています。

### 7. マリット・ハウゲン氏

#### IDF理事

2023年より理事を務めるハウゲン氏は、小規模酪農家であり、TINE SAの取締役会議長を務めています。地方自治体の管理、農業政策、コミュニケーション分野での経験を持ち、ノルウェー生命科学大学で経済学の修士号を取得しています。

### 8. ユン・ジャンヨウ博士

#### IDF理事

2023年より理事を務めるユン博士は、伊利集團の副総裁であり、加工部門を代表しています。国際酪農連盟（IDF）乳業科学技術常設委員会の委員を務め、国際的な乳業フォーラムで積極的に活動しています。また、IDF中国国内委員会の著名な専門家としても活躍しています。

### 9. チツケ・レジナ・ポルト氏

#### IDF理事

ポルト氏は、公的部門と民間部門を横断する約25年の国際経験を持つ目的志向の専門家です。CIS諸国および東欧諸国との農業貿易関係、EUの農業・漁業・生物多様性政策立案、生物多様性プロジェクト管理における豊富な専門知識を有しています。分析力と外交手腕を活かし、他者と連携しながら複雑な課題解決に取り組んでいます。

### 10. IDF事務総長 ローレンス・ライケン氏

#### 事務総長

（理事会メンバーではない）

ライケン氏は国際酪農連盟（IDF）の事務総長として、戦略的方向性の策定、ステークホルダーとの連携、科学的専門知識と協働を通じた世界の酪農乳業界を代表するIDFの使命の遂行を統括しています。

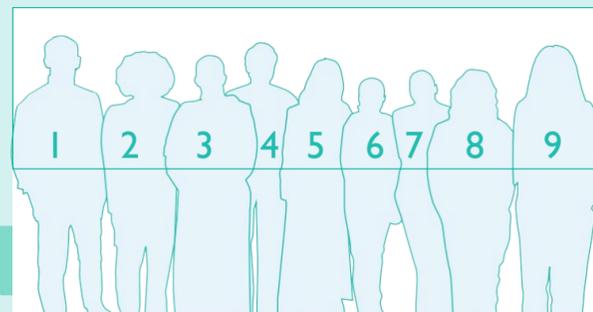
# IDF科学・計画調整委員会 (SPCC)

ジェイミー・ジョンカー (米国)	委員長	2020-2024年 (2024年2月13日開催の第116回IDF臨時総会におけるIDF定款改正に基づき、2025年まで延長)
アシシュ・クマール・シン (インド)	学術	2023-2025 (初任期)
フィリップ・トロサ (フランス)	分析法・サンプリング法	2024-2026 (第2期)
イルカ・クラス (デンマーク)	動物衛生	2024-2026 (第1期)
ウィルコ・ブラウワー・デ・コーニング (オランダ)	酪農乳業部門 (酪農)	2024-2026 (第1期)
アミット・ヴィアス (インド)	酪農乳業部門 (加工)	2024-2026 (第1期)
ショーナ・モリス (米国)	経済・政策	2023-2025 (第1期)
ニック・ガードナー (米国)	食品規格	2024-2026 (第1期)
アディティア・クマール・ジャイン (インド)	衛生と安全	2023-2025 (第1期)
リチャード・ウォルトン (日本)	マーケティング	2023-2025 (第3期)
イザベル・ナイデラー (カナダ)	栄養	2023-2025 (第1期)
アラン・ケリー (アイルランド)	テクノロジー	2024-2026 (第1期)
ピエール・バルカン (フランス)	環境	2023-2025 (第2期)
リンダ・マクドナルド (SE)	農場管理	2023-2025 (第2期)



# IDF本部

1. ダニエル・ヌニェス・ディアス博士	科学担当官
2. カジャ・シセ氏	科学担当官
3. ローレンス・ライケン氏	事務総長
4. シャルル・デュケ氏	コミュニケーションマネージャー
5. マリア・サンチェス・マイナル博士	科学・規格プログラムマネージャー
6. アポリーナ・フォス氏	事務局・会員担当マネージャー
7. オーレリー・デュボワ=ロジエ氏	科学・規格プログラムマネージャー
8. ラケル・ソウザ氏	事務担当官
9. アナベル・ムレ・カベロ博士	科学・規格プログラムマネージャー



# 財務諸表

- > 2024年度決算の剰余金充当後の残高総額は2,341,509ユーロです。
- > 純資産は2,021,645ユーロとなり、2022年にポートフォリオで計上された損失の回収により、2023年末比で164,809ユーロ増加しました。
- > この結果は、2022年度の損失に対する78,741ユーロの回収、非運転資本に対する11,939ユーロの利息、および120周年記念特別基金に計上された追加費用6,935ユーロの影響を受けています。一時的な減損を考慮しない実際の営業利益は81,063ユーロとなります。

IDF貸借対照表	2024年12月31日	2023年12月31日
固定資産	11,378	11,916
1年未満の債権	170,283	9,607
投資	1,694,067	1,604,729
現金	441,135	555,884
繰延費用	24,646	18,608
<b>資産合計</b>	<b>2,341,509</b>	<b>2,200,744</b>
純資産	2,021,645	1,856,836
費用引当金	78,824	0
1年以内支払債務	234,296	334,048
繰延収益	6,744	9,860
<b>負債合計</b>	<b>2,341,509</b>	<b>2,200,744</b>

IDF損益計算書	2024年12月31日	2023年12月31日
営業総利益率	772,095	787,484
報酬、社会保障	569,533	816,680
減価償却費	6,644	6,070
費用引当金	78,824	0
その他の営業費用	35,448	28,421
一時費用	1,662	0
財務結果	-84,825	-36,329
当期純利益	164,809	-27,358



## 1903年創立のグローバルな酪農乳業の専門知識

安全で持続可能な乳製品で世界の栄養を支える

国際酪農連盟（IDF）は、酪農乳業チェーンの全関係者に科学的・技術的専門知識を提供する主要な機関です。1903年の設立以来、IDFは安全かつ持続可能な乳製品で世界の人々を養う方法について、酪農乳業界が国際的な合意形成を図る仕組みを提供してきました。酪農乳業界における科学に基づく基準策定の国際的権威として認められているIDFは、世界の乳製品が安全かつ持続可能であることを保証するため、適切な政策、基準、慣行、規制が整備されるよう重要な役割を担っています。

> [www.fil-idf.org](http://www.fil-idf.org)

 FIL\_IDF

 国際酪農連盟 FIL-IDF

 国際酪農連盟



国際酪農連盟（IDF）  
AISBL

Silver Building  
Boulevard Auguste Reyers 70/B  
B-1030 Brussels, Belgium  
RPM Brussels

Email: [info@fil-idf.org](mailto:info@fil-idf.org)

